

VI-1-1-5-8-2 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書
(その他発電用原子炉の附属施設(火災防護設備))

目 次

1. 概要	1
2. 消火設備	3
2.1 容器	3
2.1.1 二酸化炭素消火設備二酸化炭素ボンベ	3
2.1.2 小空間固定式消火設備ハロゲン化物ボンベ	7
2.1.3 SLC ポンプ・CRD ポンプ局所消火設備ハロゲン化物ボンベ	83
2.1.4 電源盤・制御盤消火設備ハロゲン化物ボンベ	87
2.1.5 ケーブルトレイ消火設備ハロゲン化物ボンベ	92
2.1.6 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備ハロゲン化物ボンベ	199
2.2 主配管	206
2.2.1 水系消火設備主配管	206
2.2.2 二酸化炭素消火設備主配管	208
2.2.3 小空間固定式消火設備主配管	216
2.2.4 SLC ポンプ・CRD ポンプ局所消火設備主配管	301
2.2.5 電源盤・制御盤消火設備主配管	318
2.2.6 ケーブルトレイ消火設備主配管	323
2.2.7 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備主配管	430

1. 概要

本資料は、その他発電用原子炉の附属施設（火災防護設備）の申請設備に係る仕様設定根拠について説明するものである。

以下の設備の設定根拠に関する説明は、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機的设计及び工事の計画のV-1-1-8-2「設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（その他発電用原子炉の附属施設（火災防護設備）」による。

- ・電動機駆動消火ポンプ（5号機設備，6,7号機共用）
- ・ディーゼル駆動消火ポンプ（5号機設備，6,7号機共用）
- ・ろ過水タンク（5号機設備，6,7号機共用）
- ・7号機C/B計測制御電源盤区域(B)送風機室用ハロゲン化物ボンベ（6,7号機共用）
- ・使用済樹脂デカントポンプ室用ハロゲン化物ボンベ（6,7号機共用）
- ・7号機，6号機復水移送ポンプ室用ハロゲン化物ボンベ（6,7号機共用）
- ・RW/B地下3階通路用ハロゲン化物ボンベ（6,7号機共用）
- ・配管室（RW/B B2F 北東），配管室（RW/B B1F 北西）用ハロゲン化物ボンベ（6,7号機共用）
- ・RW/B地下1階通路(B)用ハロゲン化物ボンベ（6,7号機共用）
- ・RW電気品室用ハロゲン化物ボンベ（6,7号機共用）
- ・6号機，7号機MG電気品室用ハロゲン化物ボンベ（6,7号機共用）
- ・RW/B～C/B間クリーンアクセス通路用ハロゲン化物ボンベ（6,7号機共用）
- ・6号機C/B計測制御電源盤区域(B)送・排風機室用ハロゲン化物ボンベ（6,7号機共用）
- ・6号機HNCW冷凍機室用ハロゲン化物ボンベ（6,7号機共用）
- ・配管室（R/B B3F 北西）用ハロゲン化物ボンベ（7号機設備，6,7号機共用）
- ・配管室・連絡トレンチ（R-B2F-21）用ハロゲン化物ボンベ（7号機設備，6,7号機共用）
- ・A系計装用電源室用ハロゲン化物ボンベ（7号機設備，6,7号機共用）
- ・階段室（An/A 3F 北西）前室用ハロゲン化物ボンベ（7号機設備，6,7号機共用）
- ・No.3,4ろ過水タンク（山側ノズル）～電動機駆動消火ポンプ（5号機設備，6,7号機共用）
- ・No.3,4ろ過水タンク（海側ノズル）～ディーゼル駆動消火ポンプ5A，ディーゼル駆動消火ポンプ5B（5号機設備，6,7号機共用）
- ・給水建屋内分岐点（ポンプ吸込側）～大湊側D/Dポンプ建屋内分岐点（5号機設備，6,7号機共用）
- ・ディーゼル駆動消火ポンプ5A，ディーゼル駆動消火ポンプ5B～U43-F023（5号機設備，6,7号機共用）
- ・電動機駆動消火ポンプ～U43-F023（5号機設備，6,7号機共用）
- ・給水建屋内分岐点（ポンプ吐出側）～U43-F069及びU43-F096（5号機設備，6,7号機共用）
- ・5号機原子炉建屋供給ライン分岐点～5号機U43-F051（5号機設備，6,7号機共用）
- ・トレンチ内第1分岐点（U43-F022）～廃棄物処理建屋西側分岐点（6,7号機共用）
- ・トレンチ内第2分岐点（U43-F024）～トレンチ内第3分岐点（U43-F024）（6,7号機共用）
- ・U43-F052～U43-F029（6,7号機共用）
- ・U43-F069～U43-F051（7号機設備，6,7号機共用）

- ・ U43-F051～U43-F052 (7号機設備, 6,7号機共用)
- ・ 7号機 C/B 計測制御電源盤区域(B)送風機室用ハロゲン化物ポンベ～7号機 C/B 計測制御電源盤区域(B)送風機室 (6,7号機共用)
- ・ 使用済樹脂デカントポンプ室用ハロゲン化物ポンベ～使用済樹脂デカントポンプ室 (6,7号機共用)
- ・ 7号機, 6号機復水移送ポンプ室用ハロゲン化物ポンベ～7号機, 6号機復水移送ポンプ室 (6,7号機共用)
- ・ RW/B 地下3階通路用ハロゲン化物ポンベ～RW/B 地下3階通路 (6,7号機共用)
- ・ 配管室 (RW/B B2F 北東), 配管室 (RW/B B1F 北西) 用ハロゲン化物ポンベ～分岐点 (T6) (6,7号機共用)
- ・ 分岐点 (T333) ～配管室 (RW/B B2F 北東) (6,7号機共用)
- ・ 分岐点 (T6) ～配管室 (RW/B B1F 北西) (6,7号機共用)
- ・ RW/B 地下1階通路(B)用ハロゲン化物ポンベ～RW/B 地下1階通路(B) (6,7号機共用)
- ・ RW 電気品室用ハロゲン化物ポンベ～RW 電気品室 (6,7号機共用)
- ・ 6号機, 7号機 MG 電気品室用ハロゲン化物ポンベ～6号機, 7号機 MG 電気品室 (6,7号機共用)
- ・ RW/B～C/B 間クリーンアクセス通路用ハロゲン化物ポンベ～RW/B～C/B 間クリーンアクセス通路 (6,7号機共用)
- ・ 6号機 C/B 計測制御電源盤区域(B)送・排風機室用ハロゲン化物ポンベ～6号機 C/B 計測制御電源盤区域(B)送・排風機室 (6,7号機共用)
- ・ 6号機 HNCW 冷凍機室用ハロゲン化物ポンベ～6号機 HNCW 冷凍機室 (6,7号機共用)
- ・ 配管室 (R/B B3F 北西) 用ハロゲン化物ポンベ～配管室 (R/B B3F 北西) (7号機設備, 6,7号機共用)
- ・ 配管室・連絡トレンチ (R-B2F-21) 用ハロゲン化物ポンベ～配管室・連絡トレンチ (R-B2F-21) (7号機設備, 6,7号機共用)
- ・ A系計装用電源室用ハロゲン化物ポンベ～A系計装用電源室 (7号機設備, 6,7号機共用)
- ・ 階段室 (An/A 3F 北西) 前室用ハロゲン化物ポンベ～階段室 (An/A 3F 北西) 前室 (7号機設備, 6,7号機共用)

2. 消火設備

2.1 容器

2.1.1 二酸化炭素消火設備二酸化炭素ボンベ

名 称		[] 用 二酸化炭素ボンベ	
容 量	L/個	68 以上 (68)	
最高使用圧力	MPa	10.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	25	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災発生時の煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] [] 用二酸化炭素ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型の二酸化炭素ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68L/個以上とする。</p> <p>公称値については、要求される容量と同じ 68L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同様の 10.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 19 条第 5 項第六号ロにより 40℃とする。</p>			

4. 個数

設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために、各火災区画のうち最も多くの消火剤量を必要とするポンベ個数を設置する設計とする。また、系統分離対策が必要な火災区域又は火災区画は、容器弁の単一故障を考慮し、消防法で要求される必要ポンベ個数*より1個多い25個のポンベを設置する設計とする。

注記*：消防法施行規則第19条第4項第一号ロにおいて定められている消火に必要な消火剤量により算出。

名 称		[]用 二酸化炭素ポンベ	
容 量	L/個	68 以上 (68)	
最高使用圧力	MPa	10.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	25	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災発生時の煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用二酸化炭素ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型の二酸化炭素ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68L/個以上とする。</p> <p>公称値については、要求される容量と同じ 68L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同様の 10.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 19 条第 5 項第六号ロにより 40℃とする。</p>			

4. 個数

設計基準対象施設として使用する二酸化炭素ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために、各火災区画のうち最も多くの消火剤量を必要とするポンベ個数を設置する設計とし、消防法で要求される必要なポンベ個数*である 25 個のポンベを設置する設計とする。

注記*：消防法施行規則第 19 条第 4 項第一号ロにおいて定められている消火に必要な消火剤量により算出。

2.1.2 小空間固定式消火設備ハロゲン化物ポンベ

名 称		TCW ポンプ・熱交換器室用ハロゲン化物ポンベ
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
個 数	—	32
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する TCW ポンプ・熱交換器室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 32 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>		

名 称		[] 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	27	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] [] 用ハロゲン化物ポンベは 以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 27 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		T/A B2F ケーブル (I) (III)・配管トレンチ用 ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	9	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する T/A B2F ケーブル (I) (III)・配管トレンチ用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 9 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチ用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	10	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチ用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 10 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[] 用 ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	25	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] [] 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 25 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用 ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	33	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 33 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 4 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 4 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	6	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 6 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	6	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 6 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	6	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 6 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 4 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 4 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 4 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		HCU 室（西側）用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する HCU 室（西側）用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 4 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		HCU 室（東側）用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する HCU 室（東側）用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 4 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		HPAC ポンプ室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する HPAC ポンプ室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		RIP・CRD 取扱装置制御室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する RIP・CRD 取扱装置制御室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 2 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		CRD モータ試験室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する CRD モータ試験室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		TIP 駆動装置現場制御盤室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する TIP 駆動装置現場制御盤室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		RIP-ASD(A) (B) (E) (F) (H) 室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	115.4 以上(115.4)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	8	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する RIP-ASD(A) (B) (E) (F) (H) 室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 115.4L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 8 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 2 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		非管理区域入口室 (R/B 1F 北) 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	3	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する非管理区域入口室 (R/B 1F 北) 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 3 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		電気ペネ室 (R/B 1F 東) 用ハロゲン化物ポンペ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する電気ペネ室 (R/B 1F 東) 用ハロゲン化物ポンペは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンペを使用することから、当該ポンペの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの最高使用圧力は、ポンペを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンペ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンペ個数*である 2 個のポンペを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		FCS 再結合装置室用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する FCS 再結合装置室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 4 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		非管理区域入口室 (R/B 1F 南) 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する非管理区域入口室 (R/B 1F 南) 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 2 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		SLC・電気ペネ室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する SLC・電気ペネ室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 2 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		MSIV 搬出入用機器ハッチ室用ハロゲン化物ポンペ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する MSIV 搬出入用機器ハッチ室用ハロゲン化物ポンペは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンペを使用することから、当該ポンペの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの最高使用圧力は、ポンペを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンペ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンペ個数*である 1 個のポンペを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		IA・HPIN ペネ室用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	40 以上(40)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する IA・HPIN ペネ室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 40L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 40L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	3	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 3 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 4 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		電気ペネ室 (R/B 2F 北) 用ハロゲン化物ポンペ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する電気ペネ室 (R/B 2F 北) 用ハロゲン化物ポンペは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンペを使用することから、当該ポンペの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの最高使用圧力は、ポンペを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンペ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンペ個数*である 1 個のポンペを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		電気ペネ室 (R/B 2F 南) 用ハロゲン化物ポンペ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する電気ペネ室 (R/B 2F 南) 用ハロゲン化物ポンペは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンペを使用することから、当該ポンペの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの最高使用圧力は、ポンペを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンペ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンペ個数*である 2 個のポンペを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		ASD 出力トランス (D) (J) 室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する ASD 出力トランス (D) (J) 室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	5	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 5 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	5	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 5 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	3	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 3 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		ASD 出力トランス (A) (F) 室用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する ASD 出力トランス (A) (F) 室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		SGTS 室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	115.4 以上(115.4)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	5	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する SGTS 室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 115.4L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 5 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		北側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	5	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する北側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 5 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		DG(B)/Z 送風機室用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する DG(B)/Z 送風機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 2 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		南側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	115.4 以上(115.4)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する南側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 115.4L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 4 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		MS トンネル室空調機室用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	3	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する MS トンネル室空調機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 3 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		配管室 (R-1-28) 用ハロゲン化物ポンペ	
容 量	L/個	115.4 以上(115.4)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	5	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する配管室 (R-1-28) 用ハロゲン化物ポンペは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンペを使用することから、当該ポンペの容量はメーカーにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 115.4L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの最高使用圧力は、ポンペを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンペ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンペ個数*である 5 個のポンペを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		RIP・CRD 補修室，ケーブル室用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	115.4 以上(115.4)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	12	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する RIP・CRD 補修室，ケーブル室用ハロゲン化物ボンベは，以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは，火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう，火災の影響を限定し，早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は，高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから，当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 115.4L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は，ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は，消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき，40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは，火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう，火災の影響を限定し，早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 12 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	115.4 以上(115.4)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	9	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 115.4L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために、各火災区画のうち最も多くの消化剤量を必要とするポンベ個数を設置する設計とする。また、系統分離対策が必要な火災区域又は火災区画は、容器弁の単一故障を考慮し、消防法で要求される必要なポンベ個数*より 1 個多い 9 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		□用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する□用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 2 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		RIP-ASD(C) (D) (G) (J) (K) 室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	14	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する RIP-ASD(C) (D) (G) (J) (K) 室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 14 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	115.4 以上 (115.4)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	8	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する []用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 115.4L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 8 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		A系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(A)サージタンク室, AM バッテリー室用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	115.4 以上(115.4)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	8	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する A 系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(A)サージタンク室, AM バッテリー室用ハロゲン化物ボンベは, 以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは, 火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう, 火災の影響を限定し, 早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は, 高压ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから, 当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 115.4L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は, ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は, 消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき, 40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは, 火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう, 火災の影響を限定し, 早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 8 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*: 消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	115.4 以上(115.4)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] []用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 115.4L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 4 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		RIP 点検室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	82.5 以上 (82.5)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する RIP 点検室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 82.5L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 82.5L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		B系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	115.4 以上(115.4)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	7	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する B 系 HPIN 窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 115.4L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 7 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機 HECW(A)(C)冷凍機室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1以上(68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	5	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する 6号機 HECW(A)(C)冷凍機室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 5 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機 HECW(B)(D)冷凍機室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1以上(68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機 HECW(B)(D)冷凍機室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるポンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である4個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機常用バッテリー（250V・48V）室用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1以上(68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機常用バッテリー（250V・48V）室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるポンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である1個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機 C/B 常用電気品区域送・排風機室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	5	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機 C/B 常用電気品区域送・排風機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である5個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)送風機室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		[] 用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	115.4 以上(115.4)	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	9	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する [] [] 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 115.4L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 115.4L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために、各火災区画のうち最も多くの消化剤量を必要とするボンベ個数を設置する設計とする。また、系統分離対策が必要な火災区域又は火災区画は、容器弁の単一故障を考慮し、消防法で要求される必要なボンベ個数*より 1 個多い 9 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機C/B計測制御電源盤区域(A)送・排風機室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68.1以上(68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機C/B計測制御電源盤区域(A)送・排風機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である4個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		非管理区域アクセス通路 (C/B B1F) 用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	7	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する非管理区域アクセス通路 (C/B B1F) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 7 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機常用ケーブル処理室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	24 以上 (24)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機常用ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である24.0L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ24.0L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機区分Iケーブル処理室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68.1以上(68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機区分Iケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機区分Ⅱケーブル処理室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68.1以上(68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機区分Ⅱケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機区分Ⅲケーブル処理室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機区分Ⅲケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機ダクトスペース (C-3-7) 用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	24 以上 (24)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機ダクトスペース (C-3-7) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である24.0L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ24.0L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機中央制御室再循環フィルタ装置室用 ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機中央制御室再循環フィルタ装置室用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるポンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である4個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機中央制御室送・排風機室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68.1以上(68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	12	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機中央制御室送・排風機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である12個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機ケーブル処理室 (C-4-2) 用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68 以上 (68)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機ケーブル処理室 (C-4-2) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である68L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である2個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		パイプスペース (R-1-29) 用 ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置するパイプスペース (R-1-29) 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 4 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		R/B～C/B 区分 I トレンチ用 ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	9	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R/B～C/B 区分 I トレンチ用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンベ個数*である 9 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機常用電気品室, 6号機常用バッテリー (250V) 室, R/B~C/B 区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ポンベ
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
個 数	—	46
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機常用電気品室, 6号機常用バッテリー (250V) 室, R/B~C/B 区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ポンベは, 以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは, 火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう, 火災の影響を限定し, 早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は, 高压ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから, 当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である 68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は, ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は, 消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき, 40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは, 火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう, 火災の影響を限定し, 早期の消火を行うために, 各火災区画のうち最も多くの消化剤量を必要とするポンベ個数を設置する設計とする。また, 系統分離対策が必要な火災区域又は火災区画は, 容器弁の単一故障を考慮し, 消防法で要求される必要なポンベ個数*より 1 個多い 46 個のポンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*: 消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>		

名 称		6号機下部中央制御室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68.1以上(68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	3	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機下部中央制御室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である3個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機プロセス計算機室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68.1以上(68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	10	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機プロセス計算機室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である10個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		6号機計算機用トランス室用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	68.1 以上 (68.1)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する6号機計算機用トランス室用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である68.1L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ68.1L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度40℃におけるボンベ内圧と同じ5.2MPaとする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第20条第4項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である1個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第20条第3項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

2.1.3 SLC ポンプ・CRD ポンプ局所消火設備ハロゲン化物ポンペ

名 称		SLC ポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンペ	
容 量	L/個	70 以上(70)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する SLC ポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンペは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンペを使用することから、当該ポンペの容量はメーカーにて定めた容量である 70L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 70L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの最高使用圧力は、ポンペを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンペ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンペは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なポンペ個数*である 2 個のポンペを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		SLC ポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	70 以上(70)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する SLC ポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 70L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 70L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 2 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

名 称		CRD ポンプ(A) 局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ
容 量	L/個	70 以上(70)
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
個 数	—	4
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する CRD ポンプ(A) 局所消火設備用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 70L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 70L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 4 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>		

名 称		CRD ポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	70 以上(70)	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する CRD ポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である 70L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ 70L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために消防法で要求される必要なボンベ個数*である 4 個のボンベを設置する設計とする。</p> <p>注記*：消防法施行規則第 20 条第 3 項において定められている消火に必要な消火剤量により算出。</p>			

2.1.4 電源盤・制御盤消火設備ハロゲン化物ボンベ

名 称		MCC 6A-2-1 用ハロゲン化物ボンベ
容 量	L/個	<input type="text"/>
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
個 数	—	2
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する MCC 6A-2-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>MCC 6A-2-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき MCC 6A-2-1 (電源盤) の消火に必要なボンベ個数である 2 個のボンベを設置する設計とする。</p>		

名 称		MCC 6B-2-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する MCC 6B-2-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 MCC 6B-2-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき MCC 6B-2-1 (電源盤) の消火に必要なポンベ個数である 2 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		MCC 6SB-1 用ハロゲン化物ポンベ
容 量	L/個	□
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
個 数	—	2
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する MCC 6SB-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である□L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ□L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 MCC 6SB-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき MCC 6SB-1 (電源盤) の消火に必要なポンベ個数である 2 個のポンベを設置する設計とする。</p>		

名 称		MCC 6S 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する MCC 6S 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>MCC 6S 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき MCC 6S (電源盤) の消火に必要なポンベ個数である 2 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		CUW FPC F/D 盤用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する CUW FPC F/D 盤用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 CUW FPC F/D 盤用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき CUW FPC F/D 盤の消火に必要なポンベ個数である 2 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

2.1.5 ケーブルトレイ消火設備ハロゲン化物ボンベ

名 称		R-B3F-①-1 用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	□	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である □ L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ □ L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>R-B3F-①-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B3F-①-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-①-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B3F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-①-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-①-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-①-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>R-B3F-①-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-①-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-②-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-②-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B3F-②-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-②-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-②-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B3F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-②-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-②-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-②-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B3F-②-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-②-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-③-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-③-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B3F-③-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-③-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-③-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-③-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B3F-③-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-③-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-③-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-③-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B3F-③-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-③-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-④-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-④-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>R-B3F-④-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-④-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-④-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-④-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B3F-④-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-④-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B3F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-⑤-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B3F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-⑤-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B3F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B3F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B3F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B3F-⑤-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-①-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-①-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>R-B2F-①-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-①-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-①-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-①-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-①-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-①-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>R-B2F-①-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-①-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-②-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-②-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-②-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-②-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-②-4 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-4 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-②-4 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-4 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-②-5 用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-5 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="margin-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-②-5 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-5 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-②-6 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-6 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-②-6 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-6 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-②-7 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-②-7 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-②-7 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-②-7 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-③-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-③-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-③-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-③-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-③-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-③-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-③-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-③-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-③-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-③-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-③-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-③-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-④-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-④-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-④-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-④-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-④-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-④-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-④-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-④-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑤-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>R-B2F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑤-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑤-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-⑥-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑥-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-⑥-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑥-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-⑥-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑥-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-⑥-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑥-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-⑦-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑦-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-⑦-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑦-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B2F-⑦-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B2F-⑦-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B2F-⑦-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B2F-⑦-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-①-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-①-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-①-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-①-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-①-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-①-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-①-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-①-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-①-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-①-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-②-1 用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-②-1 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-②-1 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-②-1 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-②-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-②-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-②-3 用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-②-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-②-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-②-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-③-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-③-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-③-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-③-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-③-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-③-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-③-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-③-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-④-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-④-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-④-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-④-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-④-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-④-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-④-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-④-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-④-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-④-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-④-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-④-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-④-4 用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-④-4 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>R-B1F-④-4 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-④-4 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-④-5 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-④-5 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-④-5 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-④-5 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-⑤-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-⑤-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-⑤-3 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき R-B1F-⑤-3 の消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-⑥-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-⑥-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-⑥-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-⑥-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-B1F-⑥-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-B1F-⑥-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-B1F-⑥-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-B1F-⑥-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-①-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-①-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-①-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-①-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-①-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-①-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-①-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-①-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-①-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-①-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-①-4 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-①-4 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-①-4 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-①-4 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-②-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-②-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-②-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-②-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-②-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-②-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-②-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-②-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-②-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-②-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-②-4 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-②-4 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-②-4 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-②-4 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-②-5 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-②-5 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-②-5 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-②-5 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-③-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-③-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-③-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-③-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-③-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-③-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-③-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-③-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-③-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-③-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-③-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-③-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-③-4 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-③-4 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-③-4 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-③-4 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-③-5 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-③-5 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="margin-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-③-5 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-③-5 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-④-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-④-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-④-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-④-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-④-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-④-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-④-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-④-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-④-3 用ハロゲン化物ポンベ
容 量	L/個	□
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
個 数	—	1
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-④-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である □ L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ □ L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-④-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-④-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>		

名 称		R-1F-④-4 用ハロゲン化物ポンベ
容 量	L/個	□
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
個 数	—	1
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-④-4 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である □ L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ □ L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-④-4 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-④-4 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>		

名 称		R-2F-①-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-①-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-①-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-①-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-①-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-①-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-①-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-①-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-①-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-①-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-②-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-②-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-②-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-②-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-②-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-②-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-②-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-②-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-②-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-②-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-②-4 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-②-4 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-②-4 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-②-4 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-②-5 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-②-5 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-②-5 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-②-5 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-②-6 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-②-6 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-②-6 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-②-6 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-③-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-③-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="margin-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-③-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-③-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-③-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-③-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-③-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-③-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-3F-①-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-①-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-3F-①-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-3F-①-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-3F-①-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-3F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-3F-①-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-3F-①-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-①-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-3F-①-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-3F-①-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-3F-①-4 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-①-4 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-3F-①-4 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-3F-①-4 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-3F-①-5 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-①-5 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-3F-①-5 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-3F-①-5 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		C-1F-①-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する C-1F-①-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 C-1F-①-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき C-1F-①-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		C-1F-①-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する C-1F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 C-1F-①-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき C-1F-①-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		C-1F-②-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する C-1F-②-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 C-1F-②-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき C-1F-②-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		C-1F-②-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する C-1F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 C-1F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき C-1F-②-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		C-1F-②-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する C-1F-②-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 C-1F-②-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき C-1F-②-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p style="padding-left: 40px;">公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-⑤-4 用ハロゲン化物ポンベ
容 量	L/個	□
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
個 数	—	1
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-4 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である □ L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ □ L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-⑤-4 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-4 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>		

名 称		R-1F-⑤-5 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-5 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-⑤-5 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-5 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-1F-⑤-6 用ハロゲン化物ポンベ
容 量	L/個	□
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
個 数	—	1
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-6 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である □ L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ □ L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-⑤-6 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-6 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>		

名 称		R-1F-⑤-7 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-1F-⑤-7 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-1F-⑤-7 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-1F-⑤-7 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-④-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-④-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-④-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-④-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-④-2 用ハロゲン化物ポンベ
容 量	L/個	<input type="text"/>
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
個 数	—	1
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-④-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-④-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-④-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>		

名 称		R-2F-④-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-④-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-④-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-④-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-2F-④-4 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-2F-④-4 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-2F-④-4 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-2F-④-4 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-3F-②-1 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-②-1 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-3F-②-1 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-3F-②-1 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-3F-②-2 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-3F-②-2 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-3F-②-2 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		R-3F-②-3 用ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	<input type="text"/>	
最高使用圧力	MPa	4.6	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する R-3F-②-3 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である <input type="text"/> L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ <input type="text"/> L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 4.6MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度 設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則第 20 条第 4 項第四号に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数 R-3F-②-3 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき R-3F-②-3 の消火に必要なポンベ個数である 1 個のポンベを設置する設計とする。</p>			

2.1.6 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備ハロゲン化物ポンベ

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用 ハロゲン化物ポンベ	
容 量	L/個	□	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	4	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ポンベを使用することから、当該ポンベの容量はメーカーにて定めた容量である □ /個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ □ /個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用圧力は、ポンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるポンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ポンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベは、試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なポンベ個数である4個のポンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅰ）用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	□	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	2	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅰ）用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である□L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ□L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅰ）用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である2個のボンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	□	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である □ /個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ □ /個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	□	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である□L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ□L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅳ）用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	□	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅳ）用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である□L/個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ□L/個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅳ）用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (I)) 用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	□	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (I)) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である □ /個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ □ /個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (I)) 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p>			

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用 ハロゲン化物ボンベ	
容 量	L/個	□	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
個 数	—	1	
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>火災時に煙の充満又は放射線の影響により消火活動が困難なところに設置する中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用ハロゲン化物ボンベは、以下の機能を有する。</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベは、火災により発電用原子炉施設の安全性が損なわれないよう、火災の影響を限定し、早期の消火を行うために設置する。</p> <p>1. 容量</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの容量は、高圧ガス保安法の適合品である一般汎用品型のハロゲン化物ボンベを使用することから、当該ボンベの容量はメーカーにて定めた容量である □ /個以上とする。</p> <p>公称値については要求される容量と同じ □ /個とする。</p> <p>2. 最高使用圧力</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用圧力は、ボンベを設置する場所の周囲最高温度 40℃におけるボンベ内圧と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>3. 最高使用温度</p> <p>設計基準対象施設として使用するハロゲン化物ボンベの最高使用温度は、消防法施行規則に基づき、40℃とする。</p> <p>4. 個数</p> <p>中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用ハロゲン化物ボンベは、試験結果に基づき中央制御室床下フリーアクセスフロアの消火に必要なボンベ個数である 1 個のボンベを設置する設計とする。</p>			

2.2 主配管

2.2.1 水系消火設備主配管

名 称		6号機原子炉建屋供給ライン分岐点 ～ 6号機原子炉建屋内第1分岐点
最高使用圧力	MPa	1.37
最高使用温度	℃	66
外 径	mm	114.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機原子炉建屋供給ライン分岐点と6号機原子炉建屋内第1分岐点を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管のうち屋内に設置する配管の最高使用圧力は、消火系屋内消火栓設備の最高使用圧と同じ1.37MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、屋内の室温40℃を考慮し、余裕をもって66℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、消防法施行令第11条、第19条及び消防法施行規則第18条で求めている条件で消火設備を使用した場合を想定し、個々の水系消火設備が必要とする圧力損失に対し、ポンプの揚程が許容できる外径を選定し、114.3mmとする。</p>		

名 称		6号機タービン建屋供給ライン分岐点 ～ 6号機タービン建屋内第1分岐点
最高使用圧力	MPa	0.98, 1.37
最高使用温度	℃	66
外 径	mm	114.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機タービン建屋供給ライン分岐点と6号機タービン建屋内第1分岐点を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>1.1 最高使用圧力 0.98MPa</p> <p>本配管のうち屋外に設置する配管の最高使用圧力は、消火系屋外消火栓設備の最高使用圧力と同じ0.98MPaとする。</p> <p>1.2 最高使用圧力 1.37MPa</p> <p>本配管のうち屋内に設置する配管の最高使用圧力は、消火系屋内消火栓設備の最高使用圧力と同じ1.37MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、屋内の室温40℃を考慮し、余裕をもって66℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、消防法施行令第11条、第19条及び消防法施行規則第18条で求めている条件で消火設備を使用した場合を想定し、個々の水系消火設備が必要とする圧力損失に対し、ポンプの揚程が許容できる外径を選定し、114.3mmとする。</p>		

2.2.2 二酸化炭素消火設備主配管

名 称		<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div> 用 二酸化炭素ポンベ ~ U43-ESV-2
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	27.2, 42.7, 60.5, 89.1
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、<div style="border: 1px solid black; width: 500px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用二酸化炭素ポンベと U43-ESV-2 を接続する配管であり、<div style="border: 1px solid black; width: 350px; height: 15px; display: inline-block;"></div><div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; display: inline-block;"></div>内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、<div style="border: 1px solid black; width: 450px; height: 15px; display: inline-block;"></div> <input type="checkbox"/> 用二酸化炭素ポンベの最高使用圧力と同じ10.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、<div style="border: 1px solid black; width: 450px; height: 15px; display: inline-block;"></div> <input type="checkbox"/> 用二酸化炭素ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を1.4MPa以上*1及び消火に必要な二酸化炭素ガス量*2を1分以内*3に放出可能であることをメーカーにて確認している27.2mm, 42.7mm, 60.5mm, 89.1mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第19条第2項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第19条第4項第一号において定められている消火に必要な二酸化炭素ガス量 *3 : 消防法施行規則第19条第2項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称	U43-ESV-2 ~ <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div>
最高使用圧力	MPa 10.8
最高使用温度	℃ 40
外 径	mm 42.7, 89.1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、U43-ESV-2 と <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div> を接続する配管であり、 <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、 <div style="border: 1px solid black; width: 450px; height: 15px; display: inline-block;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 用二酸化炭素ポンベの最高使用圧力と同じ 10.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、 <div style="border: 1px solid black; width: 450px; height: 15px; display: inline-block;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 用二酸化炭素ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 1.4MPa 以上*1 及び消火に必要な二酸化炭素ガス量*2 を 1 分以内*3 に放出可能であることをメーカーにて確認している 42.7mm, 89.1mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 19 条第 2 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 19 条第 4 項第一号において定められている消火に必要な二酸化炭素ガス量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 19 条第 2 項第三号において定められている放射時間</p>	

名 称		<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div> 供給ライン分岐点 ~ <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div>
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 供給ライン分岐点と <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; display: inline-block;"></div> を接続する配管であり、<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、<div style="border: 1px solid black; width: 500px; height: 20px; display: inline-block;"></div></p> <p><div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 用二酸化炭素ポンベの最高使用圧力と同じ10.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、<div style="border: 1px solid black; width: 500px; height: 20px; display: inline-block;"></div></p> <p><div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 用二酸化炭素ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を1.4MPa以上*¹及び消火に必要な二酸化炭素ガス量*²を1分以内*³に放出可能であることをメーカーにて確認している76.3mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第19条第2項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第19条第4項第一号において定められている消火に必要な二酸化炭素ガス量</p> <p>*3：消防法施行規則第19条第2項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div> 供給ライン分岐点 ~ <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div>
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	42.7, 89.1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 給ライン分岐点と <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 接続する配管であり、<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、<div style="border: 1px solid black; width: 400px; height: 15px; display: inline-block;"></div> <input type="checkbox"/> 用二酸化炭素ポンベの最高使用圧力と同じ10.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、<div style="border: 1px solid black; width: 400px; height: 15px; display: inline-block;"></div> <input type="checkbox"/> 用二酸化炭素ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を1.4MPa以上*1及び消火に必要な二酸化炭素ガス量*2を1分以内*3に放出可能であることをメーカーにて確認している42.7mm, 89.1mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第19条第2項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2：消防法施行規則第19条第4項第一号において定められている消火に必要な二酸化炭素ガス量 *3：消防法施行規則第19条第2項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div> 供給ライン分岐点 ~ <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div>
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 供給ライン分岐点と <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; display: inline-block;"></div> を接続する配管であり、<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; display: inline-block;"></div> で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、<div style="border: 1px solid black; width: 500px; height: 20px; display: inline-block;"></div></p> <p><div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 用二酸化炭素ポンベの最高使用圧力と同じ10.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、<div style="border: 1px solid black; width: 500px; height: 20px; display: inline-block;"></div></p> <p><div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 用二酸化炭素ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を1.4MPa以上*1及び消火に必要な二酸化炭素ガス量*2を1分以内*3に放出可能であることをメーカーにて確認している76.3mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第19条第2項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第19条第4項第一号において定められている消火に必要な二酸化炭素ガス量</p> <p>*3：消防法施行規則第19条第2項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div> <p style="text-align: center;">二酸化炭素ポンベ ～ U43-ESV-1</p>
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	42.7, 48.6, 60.5, 89.1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<div style="border: 1px solid black; width: 250px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用二酸化炭素ポンベとU43-ESV-1を接続する配管であり、<div style="border: 1px solid black; width: 250px; height: 15px; display: inline-block;"></div>内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、<div style="border: 1px solid black; width: 250px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用二酸化炭素ポンベの最高使用圧力と同じ10.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、<div style="border: 1px solid black; width: 250px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用二酸化炭素ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を1.4MPa以上*1及び消火に必要な二酸化炭素ガス量*2を1分以内*3に放出可能であることをメーカーにて確認している42.7mm, 48.6mm, 60.5mm, 89.1mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第19条第2項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第19条第4項第一号において定められている消火に必要な二酸化炭素ガス量</p> <p>*3：消防法施行規則第19条第2項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		U43-ESV-1 ~ []
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	42.7, 89.1
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、U43-ESV-1 と [] を接続する配管であり、 [] [] 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、 [] 用二酸化炭素ポンベの最高使用 圧力と同じ10.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、 [] 用二酸化炭素ポンベの最高使用 温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を1.4MPa以上*1及び消火に必要な二酸化炭素ガス 量*2を1分以内*3に放出可能であることをメーカーにて確認している42.7mm, 89.1mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第19条第2項第二号において定められている噴射ヘッドの放射 圧力 *2：消防法施行規則第19条第4項第一号において定められている消火に必要な二酸 化炭素ガス量 *3：消防法施行規則第19条第2項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 25px; margin: 0 auto 10px auto;"></div> 供給ライン分岐点 ~ <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 25px; margin: 0 auto 10px auto;"></div>
最高使用圧力	MPa	10.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 供給ライン分岐点と <div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px; display: inline-block;"></div> を接続する配管であり、<div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、<div style="border: 1px solid black; width: 250px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 用二酸化炭素ポンベの最高使用圧力と同じ10.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、<div style="border: 1px solid black; width: 250px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 用二酸化炭素ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を1.4MPa以上*1及び消火に必要な二酸化炭素ガス量*2を1分以内*3に放出可能であることをメーカーにて確認している76.3mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第19条第2項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第19条第4項第一号において定められている消火に必要な二酸化炭素ガス量</p> <p>*3：消防法施行規則第19条第2項第三号において定められている放射時間</p>		

2.2.3 小空間固定式消火設備主配管

名 称		TCW ポンプ・熱交換器室用ハロゲン化物ボンベ ～ TCW ポンプ・熱交換器室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 76.3, 48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、TCW ポンプ・熱交換器室用ハロゲン化物ボンベと TCW ポンプ・熱交換器室を接続する配管であり、TCW ポンプ・熱交換器室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、TCW ポンプ・熱交換器室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、TCW ポンプ・熱交換器室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.9MPa 以上*¹及び消火に必要なハロン 1301 ガス量*²を 30 秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1mm, 76.3mm, 48.6mm, 42.7 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;">[Redacted]</div> 用ハロゲン化物ボンベ ~ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;">[Redacted]</div>
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 76.3, 60.5, 48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は, <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 15px;">[Redacted]</div></p> <p>用ハロゲン化物ボンベと <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 15px;">[Redacted]</div></p> <p><div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 80px; height: 15px;">[Redacted]</div> を接続する配管であり, <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 15px;">[Redacted]</div></p> <p><div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 100px; height: 15px;">[Redacted]</div> 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は, <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 200px; height: 15px;">[Redacted]</div></p> <p><div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 15px;">[Redacted]</div> 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は, <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 200px; height: 15px;">[Redacted]</div></p> <p><div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 15px;">[Redacted]</div> 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は, 噴射ヘッドの放射圧力を 0.9MPa 以上*1 及び消火に必要なハロン 1301 ガス量*2 を 30 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1mm, 76.3mm, 60.5mm, 48.6mm, 42.7 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		T/A B2F ケーブル (I) (III)・配管トレンチ用 ハロゲン化物ボンベ～ T/A B2F ケーブル (I) (III)・配管トレンチ
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	76.3, 60.5, 48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、T/A B2F ケーブル (I) (III)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベと T/A B2F ケーブル (I) (III)・配管トレンチを接続する配管であり、T/A B2F ケーブル (I) (III)・配管トレンチ内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、T/A B2F ケーブル (I) (III)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、T/A B2F ケーブル (I) (III)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.9MPa 以上*¹及び消火に必要なハロン 1301 ガス量*²を 30 秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している 76.3mm, 60.5mm, 48.6mm, 42.7 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベ ～ T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチ
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	76.3, 48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベと T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチを接続する配管であり、T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチ内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、T/A B2F ケーブル (Ⅱ)・配管トレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.9MPa 以上*¹及び消火に必要なハロン 1301 ガス量*²を 30 秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している 76.3mm, 48.6mm, 42.7 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> 用 ハロゲン化物ボンベ～ <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; margin-top: 5px;"></div>
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	76.3, 60.5, 48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用ハロゲン化物ボンベと <div style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 15px; display: inline-block;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>を接続する配管であり、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 15px; display: inline-block;"></div>内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.9MPa 以上*¹及び消火に必要なハロン 1301 ガス量*²を 30 秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している 76.3mm, 60.5mm, 48.6mm, 42.7 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用 ハロゲン化物ボンベ～ []
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 76.3, 48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、[]用ハロゲン化物ボンベと [] []を接続する配管であり、 [] []内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mm, 76.3mm, 48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> 用ハロゲン化物ボンベ ~ <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; margin-top: 5px;"></div>
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用ハロゲン化物ボンベと<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>を接続する配管であり、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> 用ハロゲン化物ポンベ ~ <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; margin-top: 5px;"></div>
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 用ハロゲン化物ポンベと <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div> を接続する配管であり、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.9MPa 以上*¹ 及び消火に必要なハロン 1301 ガス量*² を 30 秒以内*³ に放射可能であることをメーカーにて確認している 48.6mm, 42.7 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ ～ []	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	89.1	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ポンベと[]を接続する配管であり、[]内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ボンベ ～ []
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ボンベと []を接続する配管であり、[]内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mm, 76.3mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用ハロゲン化物ボンベ ～ []
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ボンベと []を接続する配管であり、[]内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mm, 76.3mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ ～ []
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ポンベと[] []を接続する配管であり、[]内で発生した火災を早期に消火するため に設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ポンベの最高使用 圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ポンベの最高使用 温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス 量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mm, 76.3mmとす る。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用ハロゲン化物ポンペ ～ []
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ポンペと[]を接続する配管であり、 []内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 76.3 mm とす る。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用ハロゲン化物ポンペ ～ []
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ポンペと[]を接続する配管であり、 []内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 76.3 mm とす る。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		HCU 室（西側）用ハロゲン化物ポンペ ～ HCU 室（西側）
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、HCU 室（西側）用ハロゲン化物ポンペと HCU 室（西側）を接続する配管であり、HCU 室（西側）内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、HCU 室（西側）用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、HCU 室（西側）用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 76.3 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		HCU 室（東側）用ハロゲン化物ポンペ ～ HCU 室（東側）	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	89.1, 76.3	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、HCU 室（東側）用ハロゲン化物ポンペと HCU 室（東側）を接続する配管であり、HCU 室（東側）内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、HCU 室（東側）用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、HCU 室（東側）用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 76.3 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		HPAC ポンプ室用ハロゲン化物ポンベ ～ HPAC ポンプ室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 48.6
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、HPAC ポンプ室用ハロゲン化物ポンベと HPAC ポンプ室を接続する配管であり、HPAC ポンプ室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、HPAC ポンプ室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、HPAC ポンプ室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 48.6 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		RIP・CRD 取扱装置制御室用ハロゲン化物ポンペ ～ RIP・CRD 取扱装置制御室	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	89.1, 76.3	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、RIP・CRD 取扱装置制御室用ハロゲン化物ポンペと RIP・CRD 取扱装置制御室を接続する配管であり、RIP・CRD 取扱装置制御室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、RIP・CRD 取扱装置制御室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、RIP・CRD 取扱装置制御室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 76.3 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		CRD モータ試験室用ハロゲン化物ポンベ ～ CRD モータ試験室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 48.6
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>本配管は、CRD モータ試験室用ハロゲン化物ポンベと CRD モータ試験室を接続する配管であり、CRD モータ試験室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、CRD モータ試験室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、CRD モータ試験室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 48.6 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		TIP 駆動装置現場制御盤室用ハロゲン化物ポンベ ～ TIP 駆動装置現場制御盤室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 48.6
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、TIP 駆動装置現場制御盤室用ハロゲン化物ポンベと TIP 駆動装置現場制御盤室を接続する配管であり、TIP 駆動装置現場制御盤室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、TIP 駆動装置現場制御盤室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、TIP 駆動装置現場制御盤室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*²を 10 秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 48.6 mm とする。</p> <p>注記*¹ : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*² : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*³ : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室用ハロゲン化物ポンペ ～ RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	114.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室用ハロゲン化物ポンペと RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室を接続する配管であり、RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、RIP-ASD(A)(B)(E)(F)(H)室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 114.3 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ ～ []
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 60.5
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ポンベと []を接続する配管であり、[]内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mm, 60.5mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		非管理区域入口室 (R/B 1F 北) 用ハロゲン化物ポンペ ～ 非管理区域入口室 (R/B 1F 北)
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、非管理区域入口室 (R/B 1F 北) 用ハロゲン化物ポンペと非管理区域入口室 (R/B 1F 北) を接続する配管であり、非管理区域入口室 (R/B 1F 北) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、非管理区域入口室 (R/B 1F 北) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、非管理区域入口室 (R/B 1F 北) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		電気ペネ室 (R/B 1F 東) 用ハロゲン化物ポンペ ～ 電気ペネ室 (R/B 1F 東)
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、電気ペネ室 (R/B 1F 東) 用ハロゲン化物ポンペと電気ペネ室 (R/B 1F 東) を接続する配管であり、電気ペネ室 (R/B 1F 東) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、電気ペネ室 (R/B 1F 東) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、電気ペネ室 (R/B 1F 東) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*²を 10 秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 76.3 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		FCS 再結合装置室用ハロゲン化物ポンペ ～ FCS 再結合装置室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、FCS 再結合装置室用ハロゲン化物ポンペと FCS 再結合装置室を接続する配管であり、FCS 再結合装置室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、FCS 再結合装置室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、FCS 再結合装置室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		非管理区域入口室 (R/B 1F 南) 用ハロゲン化物ポンペ ～ 非管理区域入口室 (R/B 1F 南)
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>本配管は、非管理区域入口室 (R/B 1F 南) 用ハロゲン化物ポンペと非管理区域入口室 (R/B 1F 南) を接続する配管であり、非管理区域入口室 (R/B 1F 南) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、非管理区域入口室 (R/B 1F 南) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、非管理区域入口室 (R/B 1F 南) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		SLC・電気ペネ室用ハロゲン化物ボンベ ～ SLC・電気ペネ室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 48.6
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>本配管は、SLC・電気ペネ室用ハロゲン化物ボンベと SLC・電気ペネ室を接続する配管であり、SLC・電気ペネ室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、SLC・電気ペネ室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、SLC・電気ペネ室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 48.6 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		MSIV 搬出入用機器ハッチ室用ハロゲン化物ポンペ ～ MSIV 搬出入用機器ハッチ室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 48.6
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、MSIV 搬出入用機器ハッチ室用ハロゲン化物ポンペと MSIV 搬出入用機器ハッチ室を接続する配管であり、MSIV 搬出入用機器ハッチ室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、MSIV 搬出入用機器ハッチ室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、MSIV 搬出入用機器ハッチ室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹ 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*² を 10 秒以内*³ に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 48.6 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		IA・HPIN ペネ室用ハロゲン化物ボンベ ～ IA・HPIN ペネ室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 48.6
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、IA・HPIN ペネ室用ハロゲン化物ボンベと IA・HPIN ペネ室を接続する配管であり、IA・HPIN ペネ室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、IA・HPIN ペネ室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、IA・HPIN ペネ室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 48.6 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用ハロゲン化物ポンペ ～ []
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ポンペと[]を接続する配管であり、[] []内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用ハロゲン化物ポンペ ～ []
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ポンペと[]を接続する配管であり、[] []内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		電気ペネ室 (R/B 2F 北) 用ハロゲン化物ポンペ ～ 電気ペネ室 (R/B 2F 北)
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 48.6
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、電気ペネ室 (R/B 2F 北) 用ハロゲン化物ポンペと電気ペネ室 (R/B 2F 北) を接続する配管であり、電気ペネ室 (R/B 2F 北) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、電気ペネ室 (R/B 2F 北) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、電気ペネ室 (R/B 2F 北) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*²を 10 秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 48.6 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		電気ペネ室 (R/B 2F 南) 用ハロゲン化物ポンペ ～ 電気ペネ室 (R/B 2F 南)
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、電気ペネ室 (R/B 2F 南) 用ハロゲン化物ポンペと電気ペネ室 (R/B 2F 南) を接続する配管であり、電気ペネ室 (R/B 2F 南) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、電気ペネ室 (R/B 2F 南) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、電気ペネ室 (R/B 2F 南) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		ASD 出力トランス (D) (J) 室用ハロゲン化物ポンベ ～ ASD 出力トランス (D) (J) 室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 48.6
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、ASD 出力トランス (D) (J) 室用ハロゲン化物ポンベと ASD 出力トランス (D) (J) 室を接続する配管であり、ASD 出力トランス (D) (J) 室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、ASD 出力トランス (D) (J) 室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、ASD 出力トランス (D) (J) 室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹ 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*² を 10 秒以内*³ に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 48.6 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用ハロゲン化物ポンペ ～ []
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ポンペと[]を接続する配管であり、[] []内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ ～ []	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	89.1	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ポンベと []を接続する配管であり、[] []内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ ～ []	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	89.1	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ポンベと[]を接続する配管であり、[] []内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		ASD 出力トランス (A) (F) 室用ハロゲン化物ボンベ ～ ASD 出力トランス (A) (F) 室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 48.6
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、ASD 出力トランス (A) (F) 室用ハロゲン化物ボンベと ASD 出力トランス (A) (F) 室を接続する配管であり、ASD 出力トランス (A) (F) 室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、ASD 出力トランス (A) (F) 室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、ASD 出力トランス (A) (F) 室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*¹ 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*² を 10 秒以内*³ に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 48.6 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		SGTS 室用ハロゲン化物ポンペ ～ SGTS 室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	114.3
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>本配管は、SGTS 室用ハロゲン化物ポンペと SGTS 室を接続する配管であり、SGTS 室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、SGTS 室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、SGTS 室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 114.3 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		北側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ポンペ ～ 北側 FMCRD 制御盤室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、北側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ポンペと北側 FMCRD 制御盤室を接続する配管であり、北側 FMCRD 制御盤室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、北側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、北側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		DG(B)/Z 送風機室用ハロゲン化物ポンベ ～ DG(B)/Z 送風機室	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	89.1	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、DG(B)/Z 送風機室用ハロゲン化物ポンベと DG(B)/Z 送風機室を接続する配管であり、DG(B)/Z 送風機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、DG(B)/Z 送風機室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、DG(B)/Z 送風機室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		南側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ポンペ ～ 南側 FMCRD 制御盤室	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	114.3	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、南側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ポンペと南側 FMCRD 制御盤室を接続する配管であり、南側 FMCRD 制御盤室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>11. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、南側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、南側 FMCRD 制御盤室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 114.3 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		MS トンネル室空調機室用ハロゲン化物ボンベ ～ MS トンネル室空調機室	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	89.1, 76.3	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、MS トンネル室空調機室用ハロゲン化物ボンベと MS トンネル室空調機室を接続する配管であり、MS トンネル室空調機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、MS トンネル室空調機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 4.8MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、MS トンネル室空調機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2 を 10 秒以内*3 に放射可能であることをメーカーにて確認している 89.1 mm, 76.3 mm とする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		配管室 (R-1-28) 用ハロゲン化物ポンペ ～ 配管室 (R-1-28)
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	114.3
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>本配管は、配管室 (R-1-28) 用ハロゲン化物ポンペと配管室 (R-1-28) を接続する配管であり、配管室 (R-1-28) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、配管室 (R-1-28) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ 4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、配管室 (R-1-28) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ 40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している114.3mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		RIP・CRD 補修室， ケーブル室用ハロゲン化物ボンベ ～ RIP・CRD 補修室， ケーブル室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	139.8, 114.3
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>本配管は， RIP・CRD補修室， ケーブル室用ハロゲン化物ボンベとRIP・CRD補修室， ケーブル室を接続する配管であり， RIP・CRD補修室， ケーブル室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は， RIP・CRD補修室， ケーブル室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は， RIP・CRD補修室， ケーブル室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は， 噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している139.8mm， 114.3mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div> 用ハロゲン化物ポンベ ~ 6U53-F811-17-S1, S2, S3
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	114.3, 76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用ハロゲン化物ポンベと6U53-F811-17-S1, S2, S3を接続する配管であり、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している114.3mm, 76.3mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6U53-F811-17-S1 ～ []	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	114.3	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6U53-F811-17-S1と [] を接続する配管であり、 [] [] 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、 [] 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、 [] 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している114.3mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2：消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		6U53-F811-17-S2 ～ []
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	114.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6U53-F811-17-S2 と [] を接続する配管であり、 [] [] 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、 [] 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、 [] 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している114.3mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6U53-F811-17-S3 ～ []
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6U53-F811-17-S3と [] を接続する配管であり、 [] [] 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、 [] 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、 [] 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している76.3mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		□用ハロゲン化物ポンペ ～ □
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 48.6
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、□用ハロゲン化物ポンペと□を接続する配管であり、□内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、□用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、□用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mm, 48.6mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		RIP-ASD(C) (D) (G) (J) (K)室用ハロゲン化物ポンペ ～ RIP-ASD(C) (D) (G) (J) (K)室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	139.8, 114.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、RIP-ASD(C) (D) (G) (J) (K)室用ハロゲン化物ポンペとRIP-ASD(C) (D) (G) (J) (K)室を接続する配管であり、RIP-ASD(C) (D) (G) (J) (K)室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、RIP-ASD(C) (D) (G) (J) (K)室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、RIP-ASD(C) (D) (G) (J) (K)室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している139.8mm, 114.3mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用ハロゲン化物ポンベ ～ []	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	114.3	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ポンベと[]を接続する配管であり、[] []内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している114.3mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		A系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(A)サージタンク室, AMバッテリー室用ハロゲン化物ポンベ ～ A系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(A)サージタンク室, AMバッテリー室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	114.3, 89.1, 76.3, 48.6
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、A系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(A)サージタンク室、AMバッテリー室用ハロゲン化物ポンベとA系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(A)サージタンク室、AMバッテリー室を接続する配管であり、A系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(A)サージタンク室、AMバッテリー室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、A系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(A)サージタンク室、AMバッテリー室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、A系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(A)サージタンク室、AMバッテリー室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している114.3mm, 89.1mm, 76.3mm, 48.6mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		[]用ハロゲン化物ボンベ ～ []
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	114.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、[]用ハロゲン化物ボンベと[]を接続する配管であり、[]内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、[]用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、[]用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している114.3mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		RIP 点検室用ハロゲン化物ポンベ ～ RIP 点検室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 48.6
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、RIP点検室用ハロゲン化物ポンベとRIP点検室を接続する配管であり、RIP点検室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、RIP点検室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、RIP点検室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mm, 48.6mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		B系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室用 ハロゲン化物ポンベ ～ B系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	114.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、B系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室用ハロゲン化物ポンベとB系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室を接続する配管であり、B系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、B系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、B系HPIN窒素ガスボンベラック・RCW(B)サージタンク室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している114.3mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機 HECW(A)(C)冷凍機室用ハロゲン化物ポンペ ～ 6号機 HECW(A)(C)冷凍機室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	60.5, 48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機HECW(A)(C)冷凍機室用ハロゲン化物ポンペと6号機HECW(A)(C)冷凍機室を接続する配管であり、6号機HECW(A)(C)冷凍機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機HECW(A)(C)冷凍機室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機HECW(A)(C)冷凍機室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している60.5mm, 48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機 HECW(B)(D)冷凍機室用ハロゲン化物ポンペ ～ 6号機 HECW(B)(D)冷凍機室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	60.5, 42.7
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、6号機HECW(B)(D)冷凍機室用ハロゲン化物ポンペと6号機HECW(B)(D)冷凍機室を接続する配管であり、6号機HECW(B)(D)冷凍機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、6号機HECW(B)(D)冷凍機室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、6号機HECW(B)(D)冷凍機室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している60.5mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機常用バッテリー（250V・48V）室用ハロゲン化物ボンベ ～ 6号機常用バッテリー（250V・48V）室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	42.7, 34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機常用バッテリー（250V・48V）室用ハロゲン化物ボンベと6号機常用バッテリー（250V・48V）室を接続する配管であり、6号機常用バッテリー（250V・48V）室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機常用バッテリー（250V・48V）室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機常用バッテリー（250V・48V）室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している42.7mm, 34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機C/B常用電気品区域送・排風機室用ハロゲン化物ポンベ ～ 6号機C/B常用電気品区域送・排風機室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	60.5, 48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機C/B常用電気品区域送・排風機室用ハロゲン化物ポンベと6号機C/B常用電気品区域送・排風機室を接続する配管であり、6号機C/B常用電気品区域送・排風機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機C/B常用電気品区域送・排風機室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機C/B常用電気品区域送・排風機室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している60.5mm, 48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室用 ハロゲン化物ポンペ ～ 6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室用ハロゲン化物ポンペと6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室を接続する配管であり、6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機C/B計測制御電源盤区域(C)送風機室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div> 用 ハロゲン化物ポンベ ～ 6U53-F831-8-S1, S2, S3, S4
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	114.3, 76.3
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用ハロゲン化物ポンベと6U53-F831-8-S1, S2, S3, S4 を接続する配管であり、<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; display: inline-block;"></div><div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; display: inline-block;"></div>内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; display: inline-block;"></div>用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している114.3mm, 76.3mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6U53-F831-8-S1	
		~	
最高使用圧力	MPa	4.8	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	76.3, 48.6	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6U53-F831-8-S1 と [] を接続する配管であり、 [] 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、 [] 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、 [] 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している76.3mm, 48.6mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		6U53-F831-8-S2 ~ [Redacted]
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	76.3, 48.6
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、6U53-F831-8-S2 と [Redacted] [Redacted] を接続する配管であり、 [Redacted] [Redacted] 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、 [Redacted] 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、 [Redacted] 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している76.3mm, 48.6mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6U53-F831-8-S3 ~ [Redacted]
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	76.3, 48.6
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、6U53-F831-8-S3 と [Redacted] [Redacted] を接続する配管であり、 [Redacted] [Redacted] 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、 [Redacted] 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、 [Redacted] 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.3MPa以上*1及び消火に必要なHFC-227eaガス量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している76.3mm, 48.6mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6U53-F831-8-S4 ～ [Redacted]
最高使用圧力	MPa	4.8
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	76.3, 48.6
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6U53-F831-8-S4 と [Redacted] [Redacted] を接続する配管であり、 [Redacted] [Redacted] 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、 [Redacted] 用ハロ ゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.8MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、 [Redacted] 用ハロ ゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を 0.3MPa 以上*1 及び消火に必要な HFC-227ea ガス 量*2を10秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している76.3mm, 48.6mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの 放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要な ハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機C/B計測制御電源盤区域(A)送・排風機室用 ハロゲン化物ポンベ ～ 6号機C/B計測制御電源盤区域(A)送・排風機室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>本配管は、6号機C/B計測制御電源盤区域(A)送・排風機室用ハロゲン化物ポンベと6号機C/B計測制御電源盤区域(A)送・排風機室を接続する配管であり、6号機C/B計測制御電源盤区域(A)送・排風機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、6号機C/B計測制御電源盤区域(A)送・排風機室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、6号機C/B計測制御電源盤区域(A)送・排風機室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室用 ハロゲン化物ポンペ ～ 6号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室用ハロゲン化物ポンペと6号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室を接続する配管であり、6号機 C/B 計測制御電源盤区域(C)排風機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機C/B計測制御電源盤区域(C)排風機室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機C/B計測制御電源盤区域(C)排風機室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		非管理区域アクセス通路 (C/B B1F) 用ハロゲン化物ポンペ ～ 非管理区域アクセス通路 (C/B B1F)
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	60.5, 48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、非管理区域アクセス通路 (C/B B1F) 用ハロゲン化物ポンペと非管理区域アクセス通路 (C/B B1F) を接続する配管であり、非管理区域アクセス通路 (C/B B1F) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、非管理区域アクセス通路 (C/B B1F) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、非管理区域アクセス通路 (C/B B1F) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している60.5mm, 48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機常用ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベ ～ 6号機常用ケーブル処理室	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	42.7, 34.0	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機常用ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベと6号機常用ケーブル処理室を接続する配管であり、6号機常用ケーブル処理室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機常用ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機常用ケーブル処理室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している42.7mm, 34.0mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		6号機区分Iケーブル処理室用ハロゲン化物ポンベ ～ 6号機区分Iケーブル処理室	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	42.7	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機区分Iケーブル処理室用ハロゲン化物ポンベと6号機区分Iケーブル処理室を接続する配管であり、6号機区分Iケーブル処理室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機区分Iケーブル処理室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機区分Iケーブル処理室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している42.7mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		6号機区分Ⅱケーブル処理室用ハロゲン化物ポンベ ～ 6号機区分Ⅱケーブル処理室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	42.7
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>本配管は、6号機区分Ⅱケーブル処理室用ハロゲン化物ポンベと6号機区分Ⅱケーブル処理室を接続する配管であり、6号機区分Ⅱケーブル処理室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、6号機区分Ⅱケーブル処理室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、6号機区分Ⅱケーブル処理室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している42.7mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2：消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機区分Ⅲケーブル処理室用ハロゲン化物ポンベ ～ 6号機区分Ⅲケーブル処理室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機区分Ⅲケーブル処理室用ハロゲン化物ポンベと6号機区分Ⅲケーブル処理室を接続する配管であり、6号機区分Ⅲケーブル処理室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機区分Ⅲケーブル処理室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機区分Ⅲケーブル処理室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している42.7mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機ダクトスペース (C-3-7) 用ハロゲン化物ボンベ ～ 6号機ダクトスペース (C-3-7)
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	42.7, 34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機ダクトスペース (C-3-7) 用ハロゲン化物ボンベと6号機ダクトスペース (C-3-7) を接続する配管であり、6号機ダクトスペース (C-3-7) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機ダクトスペース (C-3-7) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機ダクトスペース (C-3-7) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している42.7mm, 34.0mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機中央制御室再循環フィルタ装置室用ハロゲン化物ポンペ ～ 6号機中央制御室再循環フィルタ装置室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機中央制御室再循環フィルタ装置室用ハロゲン化物ポンペと6号機中央制御室再循環フィルタ装置室を接続する配管であり、6号機中央制御室再循環フィルタ装置室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機中央制御室再循環フィルタ装置室用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機中央制御室再循環フィルタ装置室用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機中央制御室送・排風機室用ハロゲン化物ポンベ ～ 6号機中央制御室送・排風機室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	76.3, 48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機中央制御室送・排風機室用ハロゲン化物ポンベと6号機中央制御室送・排風機室を接続する配管であり、6号機中央制御室送・排風機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機中央制御室送・排風機室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機中央制御室送・排風機室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している76.3mm, 48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機ケーブル処理室 (C-4-2) 用ハロゲン化物ポンペ ～ 6号機ケーブル処理室 (C-4-2)
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	42.7
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機ケーブル処理室 (C-4-2) 用ハロゲン化物ポンペと6号機ケーブル処理室 (C-4-2) を接続する配管であり、6号機ケーブル処理室 (C-4-2) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機ケーブル処理室 (C-4-2) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機ケーブル処理室 (C-4-2) 用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		パイプスペース (R-1-29) 用ハロゲン化物ボンベ ～ パイプスペース (R-1-29)
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>本配管は、パイプスペース (R-1-29) 用ハロゲン化物ボンベとパイプスペース (R-1-29) を接続する配管であり、パイプスペース (R-1-29) 内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、パイプスペース (R-1-29) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、パイプスペース (R-1-29) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		R/B～C/B区分 I トレンチ用ハロゲン化物ボンベ ～ R/B～C/B 区分 I トレンチ
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	76.3, 48.6, 42.7
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R/B～C/B 区分 I トレンチ用ハロゲン化物ボンベと R/B～C/B 区分 I トレンチを接続する配管であり、R/B～C/B 区分 I トレンチ内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R/B～C/B区分 I トレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R/B～C/B区分 I トレンチ用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している76.3mm, 48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称	6号機常用電気品室, 6号機常用バッテリー (250V) 室, R/B~C/B区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ポンベ ~ 6号機常用電気品室, 6号機常用バッテリー (250V) 室, 6U53-F831-1-S1, 6U53-F831-22-S1	
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 76.3, 60.5, 48.6, 42.7, 34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は, 6号機常用電気品室, 6号機常用バッテリー (250V) 室, R/B~C/B 区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ポンベと 6号機常用電気品室, 6号機常用バッテリー (250V) 室, 6U53-F831-1-S1, 6U53-F831-22-S1 を接続する配管であり, 6号機常用電気品室, 6号機常用バッテリー (250V) 室, R/B~C/B 区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は, 6号機常用電気品室, 6号機常用バッテリー (250V) 室, R/B~C/B区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は, 6号機常用電気品室, 6号機常用バッテリー (250V) 室, R/B~C/B区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は, 噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mm, 76.3mm, 60.5mm, 48.6mm, 42.7mm, 34.0mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6U53-F831-1-S1 ～ 6号機常用電気品室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6U53-F831-1-S1 と 6号機常用電気品室を接続する配管であり、6号機常用電気品室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機常用電気品室、6号機常用バッテリー（250V）室、R/B～C/B区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機常用電気品室、6号機常用バッテリー（250V）室、R/B～C/B区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6U53-F831-22-S1 ～ R/B～C/B 区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、6U53-F831-22-S1 と R/B～C/B 区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチを接続する配管であり、R/B～C/B 区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、6号機常用電気品室、6号機常用バッテリー（250V）室、R/B～C/B区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、6号機常用電気品室、6号機常用バッテリー（250V）室、R/B～C/B区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳトレンチ用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2：消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		6号機下部中央制御室用ハロゲン化物ボンベ ～ 6号機下部中央制御室	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	60.5, 42.7	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、6号機下部中央制御室用ハロゲン化物ボンベと6号機下部中央制御室を接続する配管であり、6号機下部中央制御室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、6号機下部中央制御室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、6号機下部中央制御室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している60.5mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		6号機プロセス計算機室用ハロゲン化物ボンベ ～ 6号機プロセス計算機室	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	60.5, 48.6, 42.7	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機プロセス計算機室用ハロゲン化物ボンベと6号機プロセス計算機室を接続する配管であり、6号機プロセス計算機室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機プロセス計算機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機プロセス計算機室用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している60.5mm, 48.6mm, 42.7mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		6号機計算機用トランス室用 ハロゲン化物ポンベ ～ 6号機計算機用トランス室
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	48.6, 42.7, 34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、6号機計算機用トランス室用ハロゲン化物ポンベと6号機計算機用トランス室を接続する配管であり、6号機計算機用トランス室内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、6号機計算機用トランス室用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、6号機計算機用トランス室用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している48.6mm, 42.7mm, 34.0mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第一号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

2.2.4 SLCポンプ・CRDポンプ局所消火設備主配管

名 称		SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ ～SLC(A)噴射ヘッド4
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 60.5, 34.0
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベとSLC(A)噴射ヘッド4を接続する配管であり、SLCポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mm, 60.5mm, 34.0mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		SLC(A)分岐点1～SLC(A)噴射ヘッド1	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	34.0	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、SLC(A)分岐点1とSLC(A)噴射ヘッド1を接続する配管であり、SLCポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		SLC(A)分岐点 2～SLC(A)噴射ヘッド 2	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	34.0	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、SLC(A)分岐点2とSLC(A)噴射ヘッド2を接続する配管であり、SLCポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		SLC(A)分岐点3～SLC(A)噴射ヘッド3	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	34.0	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、SLC(A)分岐点3とSLC(A)噴射ヘッド3を接続する配管であり、SLCポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		SLC ポンプ(B) 局所消火設備用ハロゲン化物ポンベ ～SLC(B) 噴射ヘッド4
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 60.5, 34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、SLCポンプ(B) 局所消火設備用ハロゲン化物ポンベとSLC(B) 噴射ヘッド4を接続する配管であり、SLCポンプ(B) で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(B) 局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(B) 局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mm, 60.5mm, 34.0mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		SLC(B)分岐点1～SLC(B)噴射ヘッド1	
最高使用圧力	MPa	5.2	
最高使用温度	℃	40	
外 径	mm	34.0	
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、SLC(B)分岐点1とSLC(B)噴射ヘッド1を接続する配管であり、SLCポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>			

名 称		SLC(B)分岐点 2～SLC(B)噴射ヘッド 2
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、SLC(B)分岐点2とSLC(B)噴射ヘッド2を接続する配管であり、SLCポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		SLC(B)分岐点3～SLC(B)噴射ヘッド3
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、SLC(B)分岐点3とSLC(B)噴射ヘッド3を接続する配管であり、SLCポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、SLCポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		CRD ポンプ(A) 局所消火設備用ハロゲン化物ポンペ ～CRD(A)分岐点 1
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 60.5, 48.6, 42.7, 34.0
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、CRDポンプ(A) 局所消火設備用ハロゲン化物ポンペとCRD(A)分岐点1を接続する配管であり、CRDポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(A) 局所消火設備用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(A) 局所消火設備用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mm, 60.5mm, 48.6mm, 42.7mm, 34.0mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力 *2 : 消防法施行規則第 20 条第 3 項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量 *3 : 消防法施行規則第 20 条第 1 項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		CRD(A)分岐点1～CRD(A)噴射ヘッド2
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、CRD(A)分岐点1とCRD(A)噴射ヘッド2を接続する配管であり、CRDポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		CRD(A)分岐点2～CRD(A)噴射ヘッド1
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、CRD(A)分岐点2とCRD(A)噴射ヘッド1を接続する配管であり、CRDポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		CRD(A)分岐点1～CRD(A)噴射ヘッド4
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、CRD(A)分岐点1とCRD(A)噴射ヘッド4を接続する配管であり、CRDポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*1及び消火に必要なハロン1301ガス量*2を30秒以内*3に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		CRD(A)分岐点3～CRD(A)噴射ヘッド3
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、CRD(A)分岐点3とCRD(A)噴射ヘッド3を接続する配管であり、CRDポンプ(A)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(A)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		CRD ポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベ ～CRD(B)噴射ヘッド4
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	89.1, 60.5, 48.6, 42.7, 34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベとCRD(B)噴射ヘッド4を接続する配管であり、CRDポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している89.1mm, 60.5mm, 48.6mm, 42.7mm, 34.0mmとする。</p> <p>注記*1 : 消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2 : 消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3 : 消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		CRD(B)分岐点1～CRD(B)噴射ヘッド1
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、CRD(B)分岐点1とCRD(B)噴射ヘッド1を接続する配管であり、CRDポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		CRD(B)分岐点 2～CRD(B)噴射ヘッド 2
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、CRD(B)分岐点2とCRD(B)噴射ヘッド2を接続する配管であり、CRDポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

名 称		CRD(B)分岐点3～CRD(B)噴射ヘッド3
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	34.0
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、CRD(B)分岐点3とCRD(B)噴射ヘッド3を接続する配管であり、CRDポンプ(B)で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、CRDポンプ(B)局所消火設備用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、噴射ヘッドの放射圧力を0.9MPa以上*¹及び消火に必要なハロン1301ガス量*²を30秒以内*³に放射可能であることをメーカーにて確認している34.0mmとする。</p> <p>注記*1：消防法施行規則第20条第1項第二号において定められている噴射ヘッドの放射圧力</p> <p>*2：消防法施行規則第20条第3項第二号において定められている消火に必要なハロゲン化物消火剤量</p> <p>*3：消防法施行規則第20条第1項第三号において定められている放射時間</p>		

2.2.5 電源盤・制御盤消火設備主配管

名 称		MCC 6A-2-1 用ハロゲン化物ボンベ～MCC 盤 6A-2-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、MCC 6A-2-1用ハロゲン化物ボンベとMCC盤6A-2-1を接続する配管であり、MCC盤6A-2-1内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、MCC 6A-2-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、MCC 6A-2-1用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる<input type="text"/>mmとする。</p>		

名 称		MCC 6B-2-1 用ハロゲン化物ポンベ～MCC 盤 6B-2-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、MCC 6B-2-1用ハロゲン化物ポンベとMCC盤6B-2-1を接続する配管であり、MCC盤6B-2-1内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、MCC 6B-2-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、MCC 6B-2-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		MCC 6SB-1 用ハロゲン化物ポンベ～MCC 盤 6SB-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、MCC 6SB-1用ハロゲン化物ポンベとMCC盤6SB-1を接続する配管であり、MCC盤6SB-1内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、MCC 6SB-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、MCC 6SB-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		MCC 6S 用ハロゲン化物ポンベ～MCC 盤 6S
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、MCC 6S用ハロゲン化物ポンベとMCC盤6Sを接続する配管であり、MCC盤6S内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、MCC 6S用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、MCC 6S用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		CUW FPC F/D 盤用ハロゲン化物ポンベ～CUW FPC F/D 盤
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、CUW FPC F/D盤用ハロゲン化物ポンベとCUW FPC F/D盤を接続する配管であり、CUW FPC F/D盤内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、CUW FPC F/D盤用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6 MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、CUW FPC F/D盤用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

2.2.6 ケーブルトレイ消火設備主配管

名 称		R-B3F-①-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-①-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、R-B3F-①-1用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、R-B3F-①-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、R-B3F-①-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる<input type="text"/>mmとする。</p>		

K6 ① VI-1-1-5-8-2 R0

名 称		R-B3F-①-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-①-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-①-2用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-①-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-①-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B3F-①-3 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-①-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-①-3用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-①-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-①-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-①-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B3F-②-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-②-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-②-1用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-②-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-②-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-②-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B3F-②-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-②-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-②-2用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-②-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-②-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B3F-②-3 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-②-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-②-3用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-②-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-②-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B3F-③-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-③-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-③-1用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-③-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-③-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-③-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B3F-③-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-③-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-③-2用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-③-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-③-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-③-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B3F-③-3 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-③-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-③-3用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-③-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-③-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-③-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B3F-④-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-④-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-④-1用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-④-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-④-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-④-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B3F-④-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-④-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-④-2用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-④-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-④-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-④-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B3F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-⑤-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-⑤-1用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-⑤-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-⑤-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-⑤-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B3F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-⑤-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-⑤-2用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-⑤-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-⑤-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-⑤-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B3F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B3F-⑤-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B3F-⑤-3用ハロゲン化物ポンペとR-B3F-⑤-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B3F-⑤-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B3F-⑤-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-①-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-①-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-①-1用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-①-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-①-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-①-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-①-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-①-2用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-①-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-①-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-①-3 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-①-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-①-3用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-①-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-①-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-①-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-②-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-②-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-②-1用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-②-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-②-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-②-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-②-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-②-2用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-②-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-②-3 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-②-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-②-3用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-②-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-②-4 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-②-4
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-②-4用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-②-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-4用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-②-4用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-②-5 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-②-5
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-②-5用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-②-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-5用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-②-5用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-②-6 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-②-6
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-②-6用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-②-6を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-6用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-②-6用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-②-7 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-②-7
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-②-7用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-②-7を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-②-7用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-②-7用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-③-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-③-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-③-1用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-③-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-③-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-③-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-③-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-③-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-③-2用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-③-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-③-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-③-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-③-3 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-③-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-③-3用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-③-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-③-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-③-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-④-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-④-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-④-1用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-④-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-④-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-④-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-④-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-④-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-④-2用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-④-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-④-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-④-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-⑤-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-⑤-1用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-⑤-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑤-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-⑤-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-⑤-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-⑤-2用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-⑤-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑤-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-⑤-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-⑤-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-⑤-3用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-⑤-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑤-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-⑤-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-⑥-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-⑥-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-⑥-1用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-⑥-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑥-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-⑥-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-⑥-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-⑥-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-⑥-2用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-⑥-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑥-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-⑥-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-⑦-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-⑦-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-⑦-1用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-⑦-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑦-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-⑦-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B2F-⑦-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B2F-⑦-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B2F-⑦-2用ハロゲン化物ポンペとR-B2F-⑦-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B2F-⑦-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B2F-⑦-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-①-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-①-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、R-B1F-①-1用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、R-B1F-①-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、R-B1F-①-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる<input type="text"/>mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-①-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-①-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-①-2用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-①-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-①-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-①-3 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-①-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-①-3用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-①-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-①-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-①-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-②-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-②-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-②-1用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-②-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-②-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-②-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-②-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-②-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-②-2用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-②-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-②-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-②-3 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-②-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-②-3用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-②-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-②-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-③-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-③-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-③-1用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-③-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-③-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-③-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-③-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-③-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-③-2用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-③-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-③-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-③-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-④-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-④-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-④-1用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-④-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-④-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-④-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-④-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-④-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-④-2用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-④-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-④-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-④-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-④-3 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-④-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-④-3用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-④-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-④-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-④-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-④-4 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-④-4
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-④-4用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-④-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-④-4用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-④-4用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-④-5 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-④-5
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-④-5用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-④-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-④-5用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-④-5用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-⑤-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-⑤-1用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-⑤-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-⑤-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-⑤-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-⑤-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-⑤-2用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-⑤-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-⑤-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-⑤-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-⑤-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-⑤-3用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-⑤-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-⑤-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-⑤-3用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-⑥-1 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-⑥-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-⑥-1用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-⑥-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-⑥-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-⑥-1用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-B1F-⑥-2 用ハロゲン化物ポンペ ～ R-B1F-⑥-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-B1F-⑥-2用ハロゲン化物ポンペとR-B1F-⑥-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-B1F-⑥-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-B1F-⑥-2用ハロゲン化物ポンペの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-1F-①-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-①-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-①-1用ハロゲン化物ポンベとR-1F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-①-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-①-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-①-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-①-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-①-2用ハロゲン化物ポンベとR-1F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-①-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-①-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-①-3 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-①-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-①-3用ハロゲン化物ポンベとR-1F-①-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-①-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-①-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-①-4 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-①-4
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-①-4用ハロゲン化物ポンベとR-1F-①-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-①-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-①-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-②-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-②-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-②-1用ハロゲン化物ポンベとR-1F-②-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-②-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-②-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-②-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-②-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-②-2用ハロゲン化物ポンベとR-1F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-②-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-②-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-②-3 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-②-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-②-3用ハロゲン化物ポンベとR-1F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-②-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-②-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-②-4 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-②-4
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-②-4用ハロゲン化物ポンベとR-1F-②-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-②-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-②-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-②-5 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-②-5
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-②-5用ハロゲン化物ポンベとR-1F-②-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-②-5用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-②-5用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-③-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-③-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-③-1用ハロゲン化物ポンベとR-1F-③-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-③-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-③-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-③-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-③-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-③-2用ハロゲン化物ポンベとR-1F-③-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-③-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-③-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-③-3 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-③-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-③-3用ハロゲン化物ポンベとR-1F-③-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-③-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-③-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-③-4 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-③-4
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-③-4用ハロゲン化物ポンベとR-1F-③-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-③-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-③-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-③-5 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-③-5
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-③-5用ハロゲン化物ポンベとR-1F-③-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-③-5用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-③-5用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-④-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-④-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-④-1用ハロゲン化物ポンベとR-1F-④-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-④-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-④-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-④-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-④-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-④-2用ハロゲン化物ポンベとR-1F-④-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-④-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-④-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-④-3 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-④-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-④-3用ハロゲン化物ポンベとR-1F-④-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-④-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-④-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-④-4 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-④-4
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-④-4用ハロゲン化物ポンベとR-1F-④-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-④-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-④-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-2F-①-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-①-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-①-1用ハロゲン化物ポンベとR-2F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-①-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-①-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-2F-①-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-①-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-①-2用ハロゲン化物ポンベとR-2F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-①-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-①-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-2F-①-3 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-①-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-①-3用ハロゲン化物ポンベとR-2F-①-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-①-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-①-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-2F-②-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-②-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-②-1用ハロゲン化物ポンベとR-2F-②-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-②-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-②-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-2F-②-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-②-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-②-2用ハロゲン化物ポンベとR-2F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-②-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-②-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-2F-②-3 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-②-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-②-3用ハロゲン化物ポンベとR-2F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-②-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-②-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-2F-②-4 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-②-4
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-②-4用ハロゲン化物ポンベとR-2F-②-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-②-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-②-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-2F-②-5 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-②-5
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-②-5用ハロゲン化物ポンベとR-2F-②-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-②-5用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-②-5用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-2F-②-6 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-②-6
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-②-6用ハロゲン化物ポンベとR-2F-②-6を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-②-6用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-②-6用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-2F-③-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-③-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-③-1用ハロゲン化物ポンベとR-2F-③-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-③-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-③-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-2F-③-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-③-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-③-2用ハロゲン化物ポンベとR-2F-③-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-③-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-③-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-3F-①-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-3F-①-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-3F-①-1用ハロゲン化物ポンベとR-3F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-3F-①-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-3F-①-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-3F-①-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-3F-①-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-3F-①-2用ハロゲン化物ポンベとR-3F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-3F-①-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-3F-①-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-3F-①-3 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-3F-①-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-3F-①-3用ハロゲン化物ポンベとR-3F-①-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-3F-①-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-3F-①-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-3F-①-4 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-3F-①-4
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-3F-①-4用ハロゲン化物ポンベとR-3F-①-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-3F-①-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-3F-①-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-3F-①-5 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-3F-①-5
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-3F-①-5用ハロゲン化物ポンベとR-3F-①-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-3F-①-5用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-3F-①-5用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		C-1F-①-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ C-1F-①-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、C-1F-①-1用ハロゲン化物ポンベとC-1F-①-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、C-1F-①-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、C-1F-①-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		C-1F-①-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ C-1F-①-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、C-1F-①-2用ハロゲン化物ポンベとC-1F-①-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、C-1F-①-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、C-1F-①-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		C-1F-②-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ C-1F-②-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、C-1F-②-1用ハロゲン化物ポンベとC-1F-②-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、C-1F-②-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、C-1F-②-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		C-1F-②-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ C-1F-②-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、C-1F-②-2用ハロゲン化物ポンベとC-1F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、C-1F-②-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、C-1F-②-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		C-1F-②-3 用ハロゲン化物ポンベ ～ C-1F-②-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、C-1F-②-3用ハロゲン化物ポンベとC-1F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、C-1F-②-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、C-1F-②-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-⑤-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-⑤-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-⑤-1用ハロゲン化物ポンベとR-1F-⑤-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-⑤-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-⑤-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-⑤-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-⑤-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-⑤-2用ハロゲン化物ポンベとR-1F-⑤-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-⑤-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-⑤-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-⑤-3 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-⑤-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-⑤-3用ハロゲン化物ポンベとR-1F-⑤-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-⑤-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-⑤-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-⑤-4 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-⑤-4
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-⑤-4用ハロゲン化物ポンベとR-1F-⑤-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-⑤-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-⑤-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-⑤-5 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-⑤-5
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-⑤-5用ハロゲン化物ポンベとR-1F-⑤-5を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-⑤-5用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-⑤-5用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる mmとする。</p>		

名 称		R-1F-⑤-6 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-⑤-6
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-⑤-6用ハロゲン化物ポンベとR-1F-⑤-6を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-⑤-6用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-⑤-6用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-1F-⑤-7 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-1F-⑤-7
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-1F-⑤-7用ハロゲン化物ポンベとR-1F-⑤-7を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-1F-⑤-7用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-1F-⑤-7用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる <input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		R-2F-④-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-④-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-④-1用ハロゲン化物ポンベとR-2F-④-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-④-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-④-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる mmとする。</p>		

名 称		R-2F-④-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-④-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-④-2用ハロゲン化物ポンベとR-2F-④-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-④-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-④-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる mmとする。</p>		

名 称		R-2F-④-3 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-④-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-④-3用ハロゲン化物ポンベとR-2F-④-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-④-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-④-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる mmとする。</p>		

名 称		R-2F-④-4 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-2F-④-4
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-2F-④-4用ハロゲン化物ポンベとR-2F-④-4を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-2F-④-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-2F-④-4用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-3F-②-1 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-3F-②-1
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	□
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-3F-②-1用ハロゲン化物ポンベとR-3F-②-1を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-3F-②-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-3F-②-1用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる□mmとする。</p>		

名 称		R-3F-②-2 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-3F-②-2
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-3F-②-2用ハロゲン化物ポンベとR-3F-②-2を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-3F-②-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-3F-②-2用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる mmとする。</p>		

名 称		R-3F-②-3 用ハロゲン化物ポンベ ～ R-3F-②-3
最高使用圧力	MPa	4.6
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、R-3F-②-3用ハロゲン化物ポンベとR-3F-②-3を接続する配管であり、発電所内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、R-3F-②-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ4.6MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、R-3F-②-3用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なFK-5-1-12ガス量を供給することができる mmとする。</p>		

2.2.7 中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備主配管

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用 ハロゲン化物ポンベ ～ 東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベと東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、西 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点, 西側 <input type="text"/> 供給ライン 1 分岐点及び 西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点, 西側 <input type="text"/> 供給ライン1分岐点及び西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（NON）用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（NON）用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 西側 <input type="text"/> 供給ライン 2 分岐点 及び西側 <input type="text"/> 供給ライン 3 分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と西側 <input type="text"/> 供給ライン 2 分岐点及び西側 <input type="text"/> 供給ライン 3 分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン 1301 ガス量を供給することができる <input type="text"/> m とする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン1分岐点 ～ 西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン1分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン 2 分岐点 ～ 西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン 2 分岐点と西側 PCPS 区分 NON エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン 1301 ガス量を供給することができる <input type="text"/> mm とする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン 3 分岐点 ～ 西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン3分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

名 称		西側 <input type="checkbox"/> 供給ライン 1 分岐点 ～ 西側 <input type="checkbox"/> 供給ライン 4 分岐点 及び西側 <input type="checkbox"/> 供給ライン 7 分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="checkbox"/> 供給ライン1分岐点と西側 <input type="checkbox"/> 供給ライン4分岐点及び西側 <input type="checkbox"/> 供給ライン7分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/>mとする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン 4 分岐点 ～ 西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン4分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン 5 分岐点 ～ 西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン 5 分岐点と西側 PCPS 区分 NON エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン 1301 ガス量を供給することができる <input type="text"/> m とする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 給ライン 6 分岐点 ～ 西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン 6 分岐点と西側 PCPS 区分 NON エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン 1301 ガス量を供給することができる <input type="text"/> m とする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン7分岐点 ～ 西側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン7分岐点と西側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点 ～ 東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点及び東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点と東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点及び東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 東側 <input type="text"/> 供給ライン1分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と東側 <input type="text"/> 供給ライン1分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン 2 分岐点 ～ 東側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン 2 分岐点と東側 PCPS 区分 NON エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン 1301 ガス量を供給することができる <input type="text"/> mm とする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン1分岐点 ～ 東側 <input type="text"/> 供給ライン4分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン1分岐点と東側 <input type="text"/> 供給ライン4分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン 3 分岐点 ～ 東側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン 3 分岐点と東側 PCPS 区分 NON エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ 5.2MPa とする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ 40℃ とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン 1301 ガス量を供給することができる <input type="text"/> m とする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン 4 分岐点 ～ 東側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン4分岐点と東側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン1分岐点 ～ 東側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン1分岐点と東側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 東側 PCPS 区分 NON エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と東側PCPS区分NONエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (NON) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅰ）用 ハロゲン化物ボンベ ～ <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 （概要）</p> <p>本配管は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅰ）用ハロゲン化物ボンベと <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅰ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅰ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる<input type="text"/>mmとする。</p>		

名 称		<input type="text"/> 供給ライン分岐点 ~ 東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<input type="text"/>供給ライン分岐点と東側<input type="text"/>供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅰ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅰ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる<input type="text"/>mmとする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅰ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅰ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 西側 PCPS 区分 I エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と西側PCPS区分 I エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分 I）用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分 I）用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 東側 PCPS 区分 I エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と東側PCPS区分 I エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分 I）用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分 I）用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用 ハロゲン化物ボンベ ～ <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ボンベと <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる<input type="text"/>mとする。</p>		

名 称		<input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点 ~ 西側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点及び東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<input type="checkbox"/>供給ライン分岐点と西側<input type="checkbox"/>供給ライン分岐点及び東側<input type="checkbox"/>供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最高使用圧力 <p>本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> 2. 最高使用温度 <p>本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> 3. 外径 <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる<input type="text"/>mmとする。</p> 		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 西側 PCPS 区分Ⅱエリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と西側PCPS区分Ⅱエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点 ～ 東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点及び東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン 1 分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点と東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点及び東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン1分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 東側 PCPS 区分Ⅱエリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と東側PCPS区分Ⅱエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン1分岐点 ～ 東側 PCPS 区分Ⅱエリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン1分岐点と東側PCPS区分Ⅱエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅱ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用 ハロゲン化物ボンベ ～ <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用ハロゲン化物ボンベと <input type="checkbox"/>供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる<input type="text"/>mmとする。</p>		

名 称		<input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点 ~ 西側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点及び東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<input type="checkbox"/>供給ライン分岐点と西側<input type="checkbox"/>供給ライン分岐点及び東側<input type="checkbox"/>供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最高使用圧力 <p>本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> 2. 最高使用温度 <p>本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> 3. 外径 <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる<input type="text"/>mmとする。</p> 		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 西側 PCPS 区分Ⅲエリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と西側PCPS区分Ⅲエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 東側 PCPS 区分Ⅲエリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と東側PCPS区分Ⅲエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅲ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅳ）用 ハロゲン化物ボンベ ～ <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅳ）用ハロゲン化物ボンベと <input type="checkbox"/>供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅳ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅳ）用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる<input type="text"/>mとする。</p>		

名 称		<input type="text"/> 供給ライン分岐点 ~ 西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、<input type="text"/> 供給ライン分岐点と西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅳ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分Ⅳ）用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 西側 PCPS 区分IVエリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と西側PCPS区分IVエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分IV）用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分IV）用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 東側 PCPS 区分IVエリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と東側PCPS区分IVエリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分IV）用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備（区分IV）用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (I)) 用 ハロゲン化物ボンベ ～ <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>本配管は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (I)) 用ハロゲン化物ボンベと <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (I)) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (I)) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

名 称		<input type="text"/> 供給ライン分岐点 ~ PCPS 区分 SA (I) エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、<input type="text"/> 供給ライン分岐点とPCPS区分SA (I) エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (I)) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用圧力と同じ5. 2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (I)) 用ハロゲン化物ポンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用 ハロゲン化物ボンベ ～ <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要)</p> <p>本配管は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用ハロゲン化物ボンベと <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/>mとする。</p>		

名 称		<input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点 ~ 西側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点及び東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <p>本配管は、<input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点と西側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点及び東側 <input type="checkbox"/> 供給ライン分岐点を接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力</p> <p>本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度</p> <p>本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径</p> <p>本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 西側 PCPS 区分 SA(Ⅱ)エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、西側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と西側PCPS区分SA(Ⅱ)エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mmとする。</p>		

名 称		東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点 ～ 東側 PCPS 区分 SA(Ⅱ)エリア
最高使用圧力	MPa	5.2
最高使用温度	℃	40
外 径	mm	<input type="text"/>
<p>【設 定 根 拠】 (概要) 本配管は、東側 <input type="text"/> 供給ライン分岐点と東側PCPS区分SA(Ⅱ)エリアを接続する配管であり、中央制御室床下フリーアクセスフロア内で発生した火災を早期に消火するために設置する。</p> <p>1. 最高使用圧力 本配管の最高使用圧力は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用圧力と同じ5.2MPaとする。</p> <p>2. 最高使用温度 本配管の最高使用温度は、中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備 (SA (Ⅱ)) 用ハロゲン化物ボンベの最高使用温度と同じ40℃とする。</p> <p>3. 外径 本配管の外径は、メーカーの試験結果に基づき十分なハロン1301ガス量を供給することができる <input type="text"/> mとする。</p>		

- VI-1-1-5-8-3 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書
(その他発電用原子炉の附属施設 (補機駆動用燃料
設備 (非常用電源設備及び補助ボイラーに係るもの
を除く。)))

目 次

1. 概要	1
-------------	---

1. 概要

本資料は、その他発電用原子炉の附属施設（補機駆動用燃料設備（非常用電源設備及び補助ボイラーに係るものを除く。))の申請設備に係る仕様設定根拠について説明するものである。

以下の設備の設備別記載事項の設定根拠に関する説明は、令和2年10月14日付け原規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機の設計及び工事の計画のV-1-1-5-8-3「設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（その他発電用原子炉の附属施設(補機駆動用燃料設備(非常用電源設備及び補助ボイラーに係るものを除く。)))」による。

- ・ディーゼル駆動消火ポンプ用燃料タンク（5号機設備，6,7号機共用）
- ・可搬型代替注水ポンプ（A-1級）燃料タンク（7号機設備，6,7号機共用）
- ・可搬型代替注水ポンプ（A-2級）燃料タンク（7号機設備，6,7号機共用）*
- ・大容量送水車（原子炉建屋放水設備用）燃料タンク（7号機設備，6,7号機共用）
- ・大容量送水車（海水取水用）燃料タンク（7号機設備，6,7号機共用）
- ・大容量送水車（熱交換器ユニット用）燃料タンク（7号機設備，6,7号機共用）
- ・ディーゼル駆動消火ポンプ用燃料タンク～ディーゼル駆動消火ポンプ（5号機設備，6,7号機共用）
- ・ディーゼル駆動消火ポンプ～ディーゼル駆動消火ポンプ用燃料タンク（5号機設備，6,7号機共用）

注記*：設備別記載事項の設定根拠に関する説明書の概要のうち、その他発電用原子炉の附属施設のうち補機駆動用燃料設備として使用する場合の記載について、「原子炉格納容器内における水素による爆発による破損を防止」を「原子炉格納容器内における水素による爆発による破損及び原子炉建屋等の水素爆発による損傷を防止」に、「水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止」を「水素爆発による原子炉格納容器の破損及び水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止」に読み替える。

VI-1-1-5-8-4 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（その他発電用
原子炉の附属施設（非常用取水設備））

目 次

1. 概要	1
2. 取水設備	2

1. 概要

本資料は、その他発電用原子炉の附属施設（非常用取水設備）の申請設備に係る仕様設定根拠について説明するものである。

以下の設備の設備別記載事項の設定根拠に関する説明は、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機的设计及び工事の計画のV-1-1-5-8-4「設備別記載事項の設定根拠に関する説明書（その他発電用原子炉の附属施設（非常用取水設備））」による。

- ・海水貯留堰（7号機設備，重大事故等時のみ6,7号機共用）
- ・海水貯留堰（重大事故等時のみ6,7号機共用）
- ・スクリーン室（7号機設備，重大事故等時のみ6,7号機共用）
- ・スクリーン室（重大事故等時のみ6,7号機共用）
- ・取水路（7号機設備，重大事故等時のみ6,7号機共用）
- ・取水路（重大事故等時のみ6,7号機共用）

2. 取水設備

名 称	補機冷却用海水取水路	
容 量	m ³	2880 以上(10000)
個 数	—	1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設計基準対象施設 <p>補機冷却用海水取水路は、設計基準対象施設として基準津波による水位低下に対し、原子炉補機冷却海水ポンプが機能維持でき、かつ、発電用原子炉の冷却に必要な海水を確保できる設計とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重大事故等対処設備 <p>6号機の重大事故等時にその他発電用原子炉の附属施設のうち非常用取水設備として使用する補機冷却用海水取水路の機能は、設計基準対象施設として使用する場合と同じである。</p>		
<p>1. 容量の設定根拠</p> <p>設計基準対象施設として使用する補機冷却用海水取水路の容量は、基準津波による引き波時において、海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) を下回った場合でも原子炉補機冷却海水ポンプが継続して取水可能な容量として、海水貯留堰、スクリーン室、取水路、補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽(A), (B), (C)を合わせた容量として設定する。海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) を下回る時間として想定される時間のうち、最大の約 16 分間^{*1}にわたり原子炉補機冷却海水ポンプが全個 (6 個) 運転を継続した場合においても必要な水量である 2880m³を確保できる設計^{*2}とする。</p> <p>重大事故等時に使用する補機冷却用海水取水路の容量は、設計基準対象施設の使用時と同等であるため、設計基準対象施設と同仕様で設計し、2880m³を確保できる設計とする。</p> <p>公称値については、原子炉補機冷却海水ポンプが全個 (6 個) 運転を継続した場合においても必要な水量である 2880m³を確保する^{*2}ため、海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) から原子炉補機冷却海水ポンプの設計取水可能水位 (T. M. S. L. -5240mm) の水深と海水貯留堰、スクリーン室及び取水路の各区間における対象面積を基に算出した有効貯留容量 (海水貯留堰:6578m³, スクリーン室:1500m³ 及び取水路:2015m³) である 10000m³^{*3}とする。なお、有効貯留容量の算出では、保守的に補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽(A), (B), (C)の各区間における容量を考慮していない。</p>		

$$V = T \cdot (Q / 60) \cdot n = 16 \times (1800 / 60) \times 6 = 2880 (\text{m}^3) < 10000 (\text{m}^3)$$

V : 容量 (m^3)

T : 海水貯留堰天端高さを下回る時間 (分) = 16

Q : 原子炉補機冷却海水ポンプ定格流量 ($\text{m}^3/\text{h}/\text{個}$) = 1800

n : 原子炉補機冷却海水ポンプ運転台数 (個) = 6

注記*1 : 保守的な評価として、6,7号機のうち、引き波により海面が海水貯留堰の天端位置を下回る時間が長い7号機の値を適用。(図1参照。)

*2 : 詳細は、VI-1-1-3「発電用原子炉施設の自然現象等による損傷の防止に関する説明書」のうちVI-1-1-3-2「津波への配慮に関する説明書」に記載する。

*3 : 各区分における有効貯留容量の合計値を保守的に端数処理した値。

2. 個数の設定根拠

補機冷却用海水取水路は、設計基準対象施設として海を水源とする原子炉補機冷却海水ポンプの水路として、津波による引き波時においても必要な海水を取水するのに必要な個数である1個設置する。

補機冷却用海水取水路は、設計基準対象施設として1個設置しているものを重大事故等対処設備として使用する。

名 称	補機冷却用海水取水槽 (A)	
容 量	m ³	2880 以上 (10000)
個 数	—	1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設計基準対象施設 <p>補機冷却用海水取水槽 (A) は、設計基準対象施設として基準津波による水位低下に対し、原子炉補機冷却海水ポンプが機能維持でき、かつ、発電用原子炉の冷却に必要な海水を確保できる設計とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重大事故等対処設備 <p>6 号機の重大事故等時にその他発電用原子炉の附属施設のうち非常用取水設備として使用する補機冷却用海水取水槽 (A) の機能は、設計基準対象施設として使用する場合と同じである。</p> <p>1. 容量の設定根拠</p> <p>設計基準対象施設として使用する補機冷却用海水取水槽 (A) の容量は、基準津波による引き波時において、海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) を下回った場合でも原子炉補機冷却海水ポンプが継続して取水可能な容量として、海水貯留堰、スクリーン室、取水路、補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽 (A), (B), (C) を合わせた容量として設定する。海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) を下回る時間として想定される時間のうち、最大の約 16 分間*¹ にわたり原子炉補機冷却海水ポンプが全個 (6 個) 運転を継続した場合においても必要な水量である 2880m³ を確保できる設計*² とする。</p> <p>重大事故等時に使用する補機冷却用海水取水槽 (A) の容量は、設計基準対象施設の使用時と同等であるため、設計基準対象施設と同仕様で設計し、2880m³ を確保できる設計とする。</p> <p>公称値については、原子炉補機冷却海水ポンプが全個 (6 個) 運転を継続した場合においても必要な水量である 2880m³ を確保する*² ため、海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) から原子炉補機冷却海水ポンプの設計取水可能水位 (T. M. S. L. -5240mm) の水深と海水貯留堰、スクリーン室及び取水路の各区間における対象面積を基に算出した有効貯留容量 (海水貯留堰:6578m³, スクリーン室:1500m³ 及び取水路:2015m³) である 10000m³*³ とする。なお、有効貯留容量の算出では、保守的に補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽 (A), (B), (C) の各区間における容量を考慮していない。</p>		

$$V = T \cdot (Q / 60) \cdot n = 16 \times (1800 / 60) \times 6 = 2880 (\text{m}^3) < 10000 (\text{m}^3)$$

V : 容量(m³)

T : 海水貯留堰天端高さを下回る時間(分) = 16

Q : 原子炉補機冷却海水ポンプ定格流量(m³/h/個) = 1800

n : 原子炉補機冷却海水ポンプ運転台数(個) = 6

注記*1 : 保守的な評価として、6,7号機のうち、引き波により海面が海水貯留堰の天端位置を下回る時間が長い7号機の値を適用。(図1参照。)

*2 : 詳細は、VI-1-1-3「発電用原子炉施設の自然現象等による損傷の防止に関する説明書」のうちVI-1-1-3-2「津波への配慮に関する説明書」に記載する。

*3 : 各区分における有効貯留容量の合計値を保守的に端数処理した値。

2. 個数の設定根拠

補機冷却用海水取水槽(A)は、設計基準対象施設として海を水源とする原子炉補機冷却海水ポンプの水路として、津波による引き波時においても必要な海水を取水するのに必要な個数である1個設置する。

補機冷却用海水取水槽(A)は、設計基準対象施設として1個設置しているものを重大事故等対処設備として使用する。

名 称		補機冷却用海水取水槽 (B)
容 量	m ³	2880 以上 (10000)
個 数	—	1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設計基準対象施設 <p>補機冷却用海水取水槽 (B) は、設計基準対象施設として基準津波による水位低下に対し、原子炉補機冷却海水ポンプが機能維持でき、かつ、発電用原子炉の冷却に必要な海水を確保できる設計とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重大事故等対処設備 <p>6 号機の重大事故等時にその他発電用原子炉の附属施設のうち非常用取水設備として使用する補機冷却用海水取水槽 (B) の機能は、設計基準対象施設として使用する場合と同じである。</p> <p>1. 容量の設定根拠</p> <p>設計基準対象施設として使用する補機冷却用海水取水槽 (B) の容量は、基準津波による引き波時において、海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) を下回った場合でも原子炉補機冷却海水ポンプが継続して取水可能な容量として、海水貯留堰、スクリーン室、取水路、補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽 (A), (B), (C) を合わせた容量として設定する。海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) を下回る時間として想定される時間のうち、最大の約 16 分間*¹ にわたり原子炉補機冷却海水ポンプが全個 (6 個) 運転を継続した場合においても必要な水量である 2880m³ を確保できる設計*² とする。</p> <p>重大事故等時に使用する補機冷却用海水取水槽 (B) の容量は、設計基準対象施設の使用時と同等であるため、設計基準対象施設と同仕様で設計し、2880m³ を確保できる設計とする。</p> <p>公称値については、原子炉補機冷却海水ポンプが全個 (6 個) 運転を継続した場合においても必要な水量である 2880m³ を確保する*² ため、海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) から原子炉補機冷却海水ポンプの設計取水可能水位 (T. M. S. L. -5240mm) の水深と海水貯留堰、スクリーン室及び取水路の各区間における対象面積を基に算出した有効貯留容量 (海水貯留堰:6578m³、スクリーン室:1500m³ 及び取水路:2015m³) である 10000m³*³ とする。なお、有効貯留容量の算出では、保守的に補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽 (A), (B), (C) の各区間における容量を考慮していない。</p>		

$$V = T \cdot (Q / 60) \cdot n = 16 \times (1800 / 60) \times 6 = 2880 (\text{m}^3) < 10000 (\text{m}^3)$$

V : 容量(m³)

T : 海水貯留堰天端高さを下回る時間(分) = 16

Q : 原子炉補機冷却海水ポンプ定格流量(m³/h/個) = 1800

n : 原子炉補機冷却海水ポンプ運転台数(個) = 6

注記*1 : 保守的な評価として、6,7号機のうち、引き波により海面が海水貯留堰の天端位置を下回る時間が長い7号機の値を適用。(図1参照。)

*2 : 詳細は、VI-1-1-3「発電用原子炉施設の自然現象等による損傷の防止に関する説明書」のうちVI-1-1-3-2「津波への配慮に関する説明書」に記載する。

*3 : 各区分における有効貯留容量の合計値を保守的に端数処理した値。

2. 個数の設定根拠

補機冷却用海水取水槽(B)は、設計基準対象施設として海を水源とする原子炉補機冷却海水ポンプの水路として、津波による引き波時においても必要な海水を取水するのに必要な個数である1個設置する。

補機冷却用海水取水槽(B)は、設計基準対象施設として1個設置しているものを重大事故等対処設備として使用する。

名 称	補機冷却用海水取水槽 (C)	
容 量	m ³	2880 以上 (10000)
個 数	—	1
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設計基準対象施設 <p>補機冷却用海水取水槽 (C) は、設計基準対象施設として基準津波による水位低下に対し、原子炉補機冷却海水ポンプが機能維持でき、かつ、発電用原子炉の冷却に必要な海水を確保できる設計とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重大事故等対処設備 <p>6 号機の重大事故等時にその他発電用原子炉の附属施設のうち非常用取水設備として使用する補機冷却用海水取水槽 (C) の機能は、設計基準対象施設として使用する場合と同じである。</p> <p>1. 容量の設定根拠</p> <p>設計基準対象施設として使用する補機冷却用海水取水槽 (C) の容量は、基準津波による引き波時において、海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) を下回った場合でも原子炉補機冷却海水ポンプが継続して取水可能な容量として、海水貯留堰、スクリーン室、取水路、補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽 (A), (B), (C) を合わせた容量として設定する。海水面が海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) を下回る時間として想定される時間のうち、最大の約 16 分間*¹ にわたり原子炉補機冷却海水ポンプが全個 (6 個) 運転を継続した場合においても必要な水量である 2880m³ を確保できる設計*² とする。</p> <p>重大事故等時に使用する補機冷却用海水取水槽 (C) の容量は、設計基準対象施設の使用時と同等であるため、設計基準対象施設と同仕様で設計し、2880m³ を確保できる設計とする。</p> <p>公称値については、原子炉補機冷却海水ポンプが全個 (6 個) 運転を継続した場合においても必要な水量である 2880m³ を確保する*² ため、海水貯留堰天端高さ (T. M. S. L. -3500mm) から原子炉補機冷却海水ポンプの設計取水可能水位 (T. M. S. L. -5240mm) の水深と海水貯留堰、スクリーン室及び取水路の各区間における対象面積を基に算出した有効貯留容量 (海水貯留堰:6578m³, スクリーン室:1500m³ 及び取水路:2015m³) である 10000m³*³ とする。なお、有効貯留容量の算出では、保守的に補機冷却用海水取水路及び補機冷却用海水取水槽 (A), (B), (C) の各区間における容量を考慮していない。</p>		

$$V = T \cdot (Q / 60) \cdot n = 16 \times (1800 / 60) \times 6 = 2880 (\text{m}^3) < 10000 (\text{m}^3)$$

V : 容量(m³)

T : 海水貯留堰天端高さを下回る時間(分) = 16

Q : 原子炉補機冷却海水ポンプ定格流量(m³/h/個) = 1800

n : 原子炉補機冷却海水ポンプ運転台数(個) = 6

注記*1 : 保守的な評価として、6,7号機のうち、引き波により海面が海水貯留堰の天端位置を下回る時間が長い7号機の値を適用。(図1参照。)

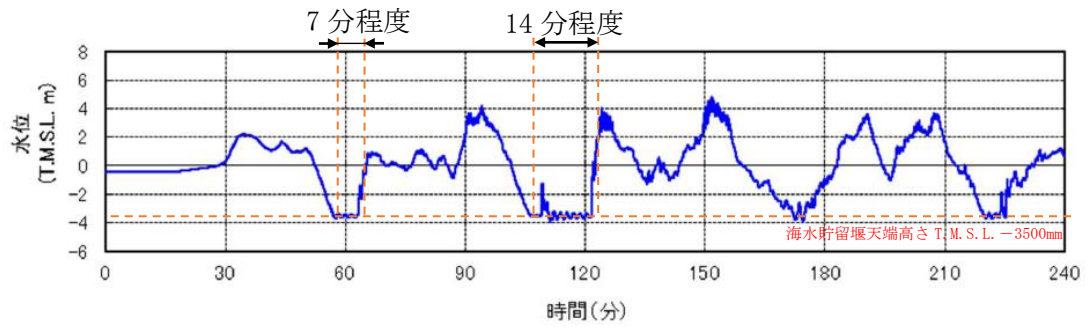
*2 : 詳細は、VI-1-1-3「発電用原子炉施設の自然現象等による損傷の防止に関する説明書」のうちVI-1-1-3-2「津波への配慮に関する説明書」に記載する。

*3 : 各区分における有効貯留容量の合計値を保守的に端数処理した値。

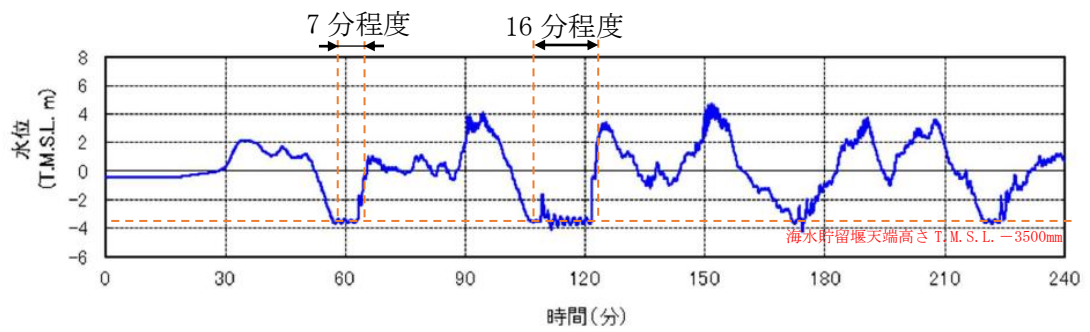
2. 個数の設定根拠

補機冷却用海水取水槽(C)は、設計基準対象施設として海を水源とする原子炉補機冷却海水ポンプの水路として、津波による引き波時においても必要な海水を取水するのに必要な個数である1個設置する。

補機冷却用海水取水槽(C)は、設計基準対象施設として1個設置しているものを重大事故等対処設備として使用する。



6号機補機冷却用海水取水槽



7号機補機冷却用海水取水槽

図1 補機冷却用海水取水槽水位の時刻歴波形（基準津波，下降側，海水貯留堰有り）